

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本薬学会	6
日本RNA学会	5
日本動物学会	5
日本育種学会	4
日本薬理学会	4
日本ウイルス学会	3
日本化学会	3
日本農芸化学会	3
日本放射線影響学会	3
基礎老化学会	2
日本インターフェロン・サイトカイン学会	2
日本エピジェネティクス研究会	2
日本細菌学会	2
日本時間生物学会	2
日本実験動物学会	2
日本内分泌学会	2
American Diabetes Association	1
American society for cell biology	1
ASCB,魚類学会	1
Genetics Society of America	1
JHUPO	1
RNA学会	1
そのほか6個	1
バイオマテリアル学会、化学とマイクロナノシステム学会、日本機会学会	1
園芸学会	1
炎症・再生医学会	1
化学工学会、日本生物工学会	1
化学工学会、日本生物工学会、日本動物細胞工学会	1
解剖学会	1
極限環境生物学会、日本微生物生態学会、	1
血管生物医学、心血管内分泌代謝学、内科学、循環器学	1
酵母遺伝学フォーラム	1
国際幹細胞学会	1
国際動物遺伝学会	1
時間生物学会	1
情報処理学会、日本バイオインフォマティクス学会	1
染色体学会、日本植物学会	1
蛋白質科学会・核磁気共鳴学会・薬学会	1
地方都市で大会(年会)を開催する学会にも所属していますが、そちらの方が充実した大会(年会)になっていると思います。	1
内科学会、薬理学会、循環器学会	1
日本Cell Death 学会	1
日本RNAi研究会	1
日本RNA学会 日本化学会	1
日本RNA学会, 日本化学会	1
日本RNA学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本細菌学会、日本ウイルス学会	1
日本アレルギー学会 日本血液学会	1
日本エピジェネティクス研究会、アメリカ免疫学会、アメリカ生化学分子生物学会	1
日本がん分子標的治療学会	1
日本がん分子標的治療学会、日本RNAi研究会	1
日本バイオインフォマティクス学会、日本畜産学会、日本動物遺伝育種学会	1
日本バイオインフォマティクス学会	1
日本バイオインフォマティクス学会 情報処理学会	1
日本バイオインフォマティクス学会, 日本エピジェネティクス研究会	1
日本育種学会、日本植物病理学会、日本ウイルス学会、	1
日本外科学会	1
日本環境変異原学会	1
日本基礎老化学会	1
日本基礎老化学会 日本セルデス学会 日本薬学会	1
日本血液学会、研究皮膚科学会	1
日本骨代謝学会	1
日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本歯科基礎医学会、日本口腔外科学会	1
日本骨代謝学会、日本農芸化学会、日本水産学会、日本薬学会	1
日本再生医療学会	1
日本再生医療学会、ISSCR	1
日本再生医療学会、日本がん分子標的治療学会、日本組織培養学会、日本放射線影響学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本蚕糸学会	1
日本実験動物学会、日本薬理学会	1
日本獣医学会	1
日本循環器学会、糖尿病学会、動脈硬化学会、血管生物医学会	1
日本小児科学会、日本腎臓病学会	1
日本植物学会	1
日本植物学会、日本育種学会、日本植物細胞分子生物学会、植物化学調節学会	1
日本植物学会、日本植物生理学会	1
日本植物病理学会	1
日本神経化学会、Society for Neuroscience	1
日本神経学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本人類遺伝学会 日本胎盤学会	1
日本腎臓学会 日本組織培養学会	1
日本数学会、日本応用数理学会	1
日本生態学会、日本細胞性粘菌学会	1
日本生物工学会	1
日本組織適合性学会 米国組織適合性学会(ASHI)	1
日本蛋白質科学会	1
日本超尿病学会	1
日本電気泳動学会	1
日本動物学会、日本比較内分泌学会	1
日本動物学会、日本比較内分泌学会、ペプチド学会	1
日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会	1
日本農芸化学会 日本生物工学会	1
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本農芸化学会、日本細菌学会	1
日本農芸化学会、日本植物細胞分子生物学会、園芸学会	1
日本農芸化学会、日本土壌肥料学会	1
日本病態プロテアーゼ	1
日本病理学会	1
日本物理学会、高分子学会	1
日本放線菌学会 日本ゲノム微生物学会 日本細菌学会	1
日本薬学会	1
日本薬学会、ケミカルバイオロジー学会	1
日本薬学会、日本ケミカルバイオロジー学会	1
日本薬学会、日本蚕糸学会	1
日本薬理学会、骨代謝学会(日本、米国)、有病高齢者歯科医療学会	1
日本薬理学会、日本神経科学会、北米神経科学会	1
日本薬理学会、日本生理学会	1
日本霊長類学会、日本人類遺伝学会	1
農芸化学会、育種学会	1
放射線影響学会	1
放射線影響学会、ストレス学会	1
薬理学会、時間生物学会	1

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	発表で終わらず、考える力をつける。
※	1	大先生もポスター発表され、ポスター会場が議論で盛り上がった。
※	1	いつもより、議論が深まった。
※	1	口頭発表では大局的な議論ができ、ポスター発表では技術的な細かい議論が出来た。
※	1	ワークショップに応募できる余地を十分に残しておくことは、ワークショップの演題の偏りを減らすためにも大変意義のあることだと存じます。また、今回は、ワークショップに採択されていた演者も全員ポスターを出すことにより、ワークショップで十分に聴けなかった部分を深く聴いたり見たりできたのは良かったと思います。
※	1	近年、分子生物学会が大きくなりすぎて、濃いディスカッションをする場が少なくなっていたと思います。今回はディスカッションをする機会も増え、充実していたと思います。
※	1	口頭発表した人もポスター会場に来ていただいて、質疑応答出来たことは画期的でした。デスカッサーは意味が無い様でした。3日間で窮屈に感じました。
※	1	興味深い研究発表が多くあり、勉強になった
※	1	ポスター会場が活発になった。
※	1	ワークショップの演題もポスター発表でさらに時間を割いて議論することができた。ポスター発表もこれまでと比較して、より深い議論をした頂いた。
※	1	シンポジウム・ワークショップで迷ったり疲れきったりせずにポスター討論へ積極的に望めた。
※	1	直接話す機会が最近減ってきていたので。発表者も、シニアが必ず質問するというのはいい刺激になったと思う。
※	1	口頭発表の内容が、ポスターでも見れるのはよい。再確認できるから。
※	1	ワークショップが大変良かった。
※	1	活発な討議ができた。
※	1	ポスター会場に活気があった
※	1	口頭発表だとしても議論する時間が限られてしまうから、ポスター発表中心で、かつ討論時間を長めにとることは、利点はあると思います。ただし、今回は参加していません。
※	1	ワークショップで聞いて、その日のうちにポスターでディスカッションできるのは良かった。
※	1	ポスドク、助教クラスが積極的に演題応募する気になりました。
※	1	活発なディスカッションがされていた
※	1	一般演題からの口頭発表のチャンスはいかされるべき。その具体的な実行につながった。
※	1	興味ある発表について、深く論議できた。
※	1	ワークショップで話したあとに、ワークショップの他の演者とポスター前で詳しい議論ができたので。
※	1	ポスター討論の場に座長がいて進められることはとてもいいことだと思いました。
※	1	学会は議論する場だから。
※	1	コンセプトは非常によいと思う。ただ、デスカッサーはあまり必要がないと思う。
※	1	見るだけでなく、討論して意見交換することが重要だと考えているから。
※	1	学会なので。
※	1	マンモス学会で研究者間の交流が希薄になるのを防ぐため一定の効果が期待されたように思う。
※	1	うまく機能しており、ディスカッションが活発に行われていたと感じた。
※	1	例年と実質的な違いは感じませんでしたが、コンセプトには賛同します。
※	1	ワークショップでは議論の時間が短かったように感じた。またその反面、ポスターは非常に長かった。いずれも適切な時間配分ではないように感じたが、いずれかでは議論ができた場合もあったので、その点ではコンセプトは達成されているように感じた。
※	1	ワークショップ、ポスターともに議論が活発で良かったと思います。
※	1	ワークショップの顔ぶれが固定化されず、新しい話を聞くことができた。また、全てのポスターで議論が活発になっていた。
※	1	ワークショップで概略を話す、問題提起をする。そして、その後のポスターでさらに詳細まで突っ込んで議論する。という流れが有効に機能していたと思う。
※	1	ポスターのディスカッション時間が長いのは良いが、口頭発表が少なくなったことと、3日間だったのでポスター数が多すぎた。
※	1	ポスター時間帯にフォーラムなどの他の企画がなかったことは大変よい。
※	1	ディスカッションの幅が広がり、研究者同士の交流も深まるので。
※	1	異分野と交流できた
※	1	ポスターを貼ったものの、一人もギャラリーが来なかった、ということもある中で、確実にデスカッサーの先生に話を聞いていただける、というのは非常に良かったです。
※	1	参加していないが、論文になる前だけでなく、雑誌掲載後のデータについてもディスカッションするのであれば大変良いと思う。
※	1	一般演題からワークショップに採択され、口頭発表を行う機会が得られたから。
※	1	一対一の議論を行うことができたため
※	1	口頭発表も良いけど、ポスターの前でやり取りができるのが良い。ただし、発表者は世間話をしない自覚を持ってほしい。同窓会ではない。
※	1	少なくとも、デスカッサーを指定したおかげで、ポスター発表が貼りっぱなしで終わりということがなくなったから。
※	1	ポスター発表において、多くの研究者と話し合えた。
※	1	ポスターが例年より活気があった

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	ワークショップでの質疑応答には時間が制限されているので、ワークショップの発表者がポスター発表もで行うことにより、多くの議論を多数の人達と行うことができたと思う。
※	1	ワークショップの演題についてもポスターを掲示したことは大変に良かった。ワークショップでの講演を聞いた後、発表者と議論できるので、大変に理解が深まった。次回以降も、是非ポスター掲示を続けてほしい。
※	1	自分が選ばれたため。ただお友達同士、共同研究者同士のワークショップ発表の選び合いはよくない。
※	1	シンポジウム・ワークショップなどでは時間の制約が大きくディスカッションが十分にできないが、ポスターであれば十分に聞くことができたため。ポスター発表についても前後に時間がとられていたため、余裕があった。
※	1	普段ポスターで密なディスカッションができないようなワークショップ演者の先生と討論することが出来た。
※	1	最新のデータについて討論できる
※	1	自分の関連する分野を見た限りでは、ポスター、ワークショップとも例年に比べて高レベルだった。
※	1	ポスター討論を活発にすると、若手研究者同士がお互い交流しやすい。当該分野で研究者同士が議論を深めるいい機会となる。
※	1	ワークショップの口頭発表者とポスター前で議論できたことは、とても有意義だった。今後もぜひ続けてほしい。
※	1	直接、研究者に話が聞けたので。ただし、人気のあった内容だと、直接聞くことが出来ず残念だった。
※	1	若手には刺激になったのではないかと思います。
※	1	若手が口頭発表できる機会が多くなり、良いと思う。
※	1	学会とは元来そういうものであろうと考える。
※	1	・3日間でコンパクト・ポスター、機器展示、NBRP展示等が全て1会場(階も一緒)・講演時間とポスター時間が完全に分離・ワークショップも一般演題から多くを採用・ディスカッサーの復帰(駆け出しの学生のやる気を引き出した)
※	1	毎年シンポジウムは同じようなメンバー、同じグループの研究者ばかりが演者になる傾向がある。広く一般演題からポテンシャルのある演題を採用するのが良いと思う。
※	1	発表者としてはできるだけ多くの人に成果を聞いてもらうこと、オーディエンスとしてはできるだけ多くの研究成果を学ぶことが参加の目的だから。
※	1	ポスター討論を重視するコンセプト自体には賛成
※	1	ディスカッサーを配置して議論したのは効果があったように感じます。
※	1	poster前でディスカッションできる機会が増えた。時間の都合で見られなかったWSの演題もposterで見ることができ、話をきけた。
※	1	サイエンスの基本だと思います。
※	1	幅広い分野との意見交換が可能。
※	1	ディスカッサー制を採用したことにより議論が深まったのではないかと思います。
※	1	聞きたい口演が重なることが減るから。
※	1	ワークショップが非常にまとまっておりました。しかしながら聴講したいセッションが重なっていたのが少し残念でした。
※	1	ディスカッサーの先生方が丁寧に討論をすすめてくださっていました。
※	1	ポスターを貼り逃げではなく、責任を持って討論する姿勢を持てたと思う。ディスカッサー制度も良かったし、時間も長くて満足感があった。
※	1	科学の基本は議論することだと思います。
※	1	素晴らしいお考えだったと思います。
※	1	違う分野や年齢の人達と研究の話をすることがお互いに刺激になるので、出来るだけ多くの方が発表する機会を作る事が肝要。
※	1	盛況ではあったが、逆に日頃のコミュニケーションが足りていないからではないか。そのギャップを埋める意味でも良かった。
※	1	ワークショップの聞きたい演題がかぶっていたことが多く、あきらめなければならない演題もあったが、その場合にポスター討論の場で聞くことが出来たので。
※	1	ワークショップで聞きたい演題もポスターで会場で確認し話もできる点は良かった。以前の本学会の良さに戻ってきた印象もあった。
※	1	自分のポスター発表時間に、他の研究者のポスター発表者へ質問することができた。
※	1	多くの先生方と話ができたのが良かったです。
※	1	ワークショップが充実していたことと、ポスターでディスカッションの時間が長かったため。
※	1	ポスターの時間に余裕があり、討論する時間を長くとることが出来たことが良かった。
※	1	教授がポスター発表しており、大変勉強になった。
※	1	お祭りみたいな学会ではなく議論する場としての学会であった初期の分子生物学会のようだったので
※	1	議論することはよいことである(一般論)。ただし、質の低い議論は時間の無駄であることも確かである。
※	1	ポスター発表が盛り上がった。
※	1	ポスター会場における討論が例年以上に活発であった。
※	1	よかったがディスカッサーは不要だったように感じました。特に、会場で頻りに流れるアナウンスの音量が大きかったのが気になりました。
※	1	もっとも当たり前な学会の基本だから。ただ、様々な工夫は見られたものの、残念ながら今回は、意図の実現には至らなかったと思う。ポスター会場は、ごく一部のところどころを除いては、閑散としていた。昔のような活気ある状況には遠かった。ただ、継続していけば、だんだんと変わって来るかもしれない、という期待はしている。運営の皆様は、ご苦労様でした。
※	1	今回ワークショップの会場が狭かった
※	1	一般からのピックアップは多様な議論の推進力になったと思います。

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	一般から口頭発表を複数選んでいる点
※	1	コンセプトとしては良かった。データを前にとことん議論したかは少し疑わしい。
※	1	ポスター討論に活気があったと思います。
※	1	シンポジウム、ワークショップ、ポスター、いずれも素晴らしかった。全体的なバランスも良く、良い学会だと思った。
※	1	ポスターでは例年より多くの質問、討論ができたので。ワークショップとポスターがうまく連動したのではないのでしょうか？
※	1	ポスターからWSへ採用、口頭発表が増えるのは、若手にとってとても良い。
※	1	有意義なワークショップが多くあった。
※	1	情報交換の場でもあるし、深い討論・話し合いは学会や研究会(あまり大きくない!)で行われるのが常であったように思います。マンモス化した分子生物学会では、今後、部会等の単位での活発な議論が展開できるような雰囲気を作っていく必要があるかと思えます。
※	1	ポスターが見やすかった他、特に関心のある演題については講演でも聴くことができ良かった。
※	1	専門から少し離れる分野にどの様に進めればよいのかわからない場合、メカニズムがわからなくても、事象の報告を気軽にできる雰囲気づくることが、研究活性化に役立つ。また、研究の過程をオープンに語り合うことで不正の防止につながる。
※	1	ディスカッサー制が導入され、発表者がディスカッサーに説明する機会が与えられていることや、奇数偶数番号の説明時間帯の前後にも時間が取られていることがポスター発表を活性化する上で非常によいと思った。
※	1	学会の原点に立ち帰った構成は良かった。
※	1	いろいろな情報が得られた。
※	1	ポスター発表が充実していたのがよかった。ワークショップもいつもより面白いと感じた。ただ、ポスター発表の終了時間がやや遅かったのも、もう少し時間調整できると良いと思った。
※	1	ワークショップの発表について、ポスター発表で詳しく聞ける点が非常に良かった
※	1	本来の分生の学会らしくてよかった。最近はそのような雰囲気がなくなってきていたようだったので、サイエンス中心で楽しかった。個人的にはポスターの並び方(その分野の内容の流れみえて)も良かったと思う。
※	1	コンセプトはいい。実効性を上げるにはさらにもう一工夫が欲しい。
※	1	ポスター討論の時間が長くなった事で幾つかのポスターを回る事ができて良かった。一方で終了時間がどうしても遅くなるので、ポスター開始を30~60分早めて欲しい。ワークショップの演者がポスターの前に立たず、その縁者と深い議論がしたいのに、大学院生に立たせているのはどうかと思う。
※	1	学会の底辺が広い、あるいは年会在底辺を刺激する、ということになると思うので。
※	1	やはり、学会はこうあるべき。
※	1	ワークショップがその分野のグループの中でマンネリ化しているようであったが、より多くの外部の研究グループが入って違った方面からの発表が聞けたように思われた。
※	1	ポスター発表が例年より活気があったように思いました。興味を持って下さっている研究者の方たちと議論を交わして、こちらから伝えたいことのみではなく、先方からの希望、要望を聞けたのは非常に有益でした。今後の研究活動の方向性を決めるとも良い機会でした。
※	1	各セッションともこれまでに聞いたことのないような演題が聞けて、活性化していたと思うため。
※	1	ただし、負担が増えて外国人招待講演者には大変だったと思う。
※	1	ポスター会場、大変盛り上がりました。トークとポスター両方作るのがちょっと大変でした。
※	1	WS等で聞けなかった話もポスターで補完できたのが良かった。
※	1	学会参加は「受け身」ではよくないと考えるから。学生さんは自分で積極的に考えて実験しているとは限らないので、他の研究室の日との批判を受ければ少しは自分の実験内容wお考えるようになって、理解が深まると思う。
※	1	ディスカッサーをあらかじめ配置させ、ディスカッションを積極的に仕向けた点は良かったと思う。
※	1	一般演題から選抜しないと、いつも同じようなメンバーが講演することになる。それらのメンバーの研究は、学会で講演を聞かなくても多数の雑誌やメディア等に掲載されるので、面白くない。それよりは、一般演題から良質な研究を選び講演してもらう方が、会員のためになると思われる。特に、発表の機会を得た若い会員を勇気づけることになり、その効果は著しいと考えられる。また、選ばれなかった若い会員においても良質の研究をすれば、選ばれるチャンスがあると実感することは、会員および学会の活性化になると思われます。
※	1	口頭に一般演題から選ばれることは、研究・演題登録意欲につながる。また、ディスカッサー制度はとても良かった。とくに関連ワークショップの座長やその知人の先生などが積極的に議論に応じてくれた。今後もこのパターンを継続してほしい。
※	1	日本は元来議論の文化が希薄なので、意識して議論の場を設けて後押しした方が良い。
※	1	若い研究者が著名な研究者と討論できる貴重な機会だと思います。
※	1	ディスカッサーの議論が口火となって盛り上がる例が多かったように思うから。
※	1	WSで発表できる機会が増えた。
※	1	「ホンモノのデータに基づいた議論を行う」というコンセプトには賛同するが、この目的に近づいているようには感じられなかった。
※	1	ポスター会場でワークショップ演者に質問ができたことが良かった。欲を言えば、口頭発表の機会がもっとあれば良かった。
※	1	議論でアイデアがでる。自分の発表への反響もわかる。
※	2	最終日の遅い時間にポスターがあると飛行機に間に合わない。
※	2	午前中の企画シンポジウムのみはよくない。それよりも若手研究者や院生のオーラル発表を増やすべき。

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	2	口頭発表者が、ポスターもつくる必要は全くない。特に、この時期に学生が両方用意するのは、本当に大変。また、ポスターの英語化も不要。学生の就職活動のスケジュールなどを考えたら、来年度より、どんなに早くとも10月までは就職活動をしている学生が最後に参加できる学会であることを考慮して、再考すべきである。
※	2	シンポジウムが少なく、選択肢がない。会場数も少なく、立ち見どころか定時にいっても入室すら出来ない。ワークショップの会場の割当てが拙い。一方でがららの項目に、広い会場を割り当てて、もう一方で込み合う事が容易に予想されるワークショップに狭い会場を割り当てている。ポスターを重視と言うが、ポスターに三時間もぶっ通しで費やされると、疲れてしまい議論できない。今までで最悪の会場運営であり、大会長の責任と考えてよいだろうと思う。
※	2	ワークショップ自身の題名と、個々の演題の統一性がなかった。また、興味がある演題を見ようとすると、会場のはしごをこまめにしなければならなかった。しかし、それぞれの講演会場は狭く、はしごをすることが厳しかった。結果として閉め出されてしまい、フロアで雑用をすませる時間が増えてしまった。もちろん、会場のはしごをせず、一つの会場で最後迄閲覧すればよかったのかもしれないが、ポスターにおいても、私が興味を強く持つ内容が少なかったように感じる。ただこれは、たまたまかもしれない。ちなみに、ポスターの時間は長過ぎた。
※	2	実際には、ポスター発表時にディスカッサーの先生が来られず、特に討論することもなく終了したため。
※	2	一般演題の発表時間が短く始終せかせかせした流れであった。ポスター討論中心というが、あの広い会場で順に話をきいていると、ポスター発表者の拘束時間が短いせいか、目当てのポスターのところに行っても発表者がいない事が多々あった。直接話がきけず残念であった。
※	2	ポスターの時間が長すぎる。関係無い話をしている人が多くて、説明が聞き取れないことがある(こういう人たちをどうにかすることはできないのでしょうか?)。発表の時間が終わったら別の場所で議論するようにしてほしい。指定の時間に発表者がいないので無駄足だった。
※	2	基礎的過ぎる感じがする。学生中心は大事だが、練習を目的にしたポスターが多すぎる。
※	2	ポスターとワークショップが乖離しているように感じた。ポスター発表時間が長い
※	2	コンセプトが伝わらなかった
※	2	ポスター会場では議論が盛んに行われていて良かったが、これは例年通りで、今年やり方を変えたからそうだったとは思えない。シンポジウムが少なかったので、午前中の参加者が少ないように見えた。
※	2	ワークショップの発表者にもポスター発表を課していたが、その研究室の若手がワークショップ発表者の代理で立っている所が多く、ポスター作成を含めて若手の仕事が全国的に増えただけに思えた。代理で立たされた若手は自分の興味あるポスターを見に行けず(発表者の偉い先生方は事務仕事のため帰宅)、結果として議論の機会を奪われた人が多かったと思う。議論を活発にするのは大賛成だが、発表の主軸はポスターではなく口頭発表に置くべきだと感じた。
※	2	ワークショップごとでどの演題を採択するかで連絡ができていなかったのと同じ話を(学生と教員など)聞くことが多かった。また、一般から要旨で選んでみたものの、本人(学生)が質疑応答にしっかりと答えられない場面も多く見られた。口頭発表はある程度研究全体がわかっている人に限定した方がよいと思う。
※	2	poster presentationの改善は見られず、最先端研究をしているシンポジストが少なかった。無理やりの日本人英語発表は聞くに堪えない。
※	2	もう少しエキスパートの話を聞くことができる機会が欲しかった
※	2	もう少し口頭発表(特にシンポジウム)があってよい。
※	2	数年前、ディスカッサーが評判が悪く、やめたはずなのになぜ、まだ始めるのか。
※	2	ポスター討論の時間が長いと思います。
※	2	通常のポスターセッションとあまり変わらなかった。
※	2	ワークショップ発表者にポスター発表も半ば強制的に要求するのはいかがなものでしょうか。
※	2	口演の演題数が限られ、時間も重なっていたため多くを聴けなかった。WSがポスターになっていないことが多く、後から確認できなかった。また、ポスターも演題取り下げ以外にも貼っていないものが多々あったがそれが現場に行くまで確認できず、十分な議論ができたとは言えない結果となった。
※	2	ポスター討論はディスカッサーと1:1で話しているところを多くみかけたが、あまり意義のあるものには感じられなかった。
※	2	今年は期間も短くて淡々と終わった感じが強く、昨年のようにわくわくする企画がなかった。学術に集中するのはもっともだが、一年に一度の大会なので、お祭りのような要素がないと寂しい。
※	2	結局、普通のポスター発表通りで、「サイエンスの議論を中心に、皆がデータを前にとことん議論する！」工夫が特になされていなかった。ディスカッサーは機能していなかった。
※	2	一般からの応募を減らして、一人20分は持ち時間として欲しい
※	2	ポスター発表が、従来通りではなく、発表者が、決められた時間に、限られたグループに対して、ポスターの前で研究紹介をする、ディスカッサー制がとられていた。それだと、口頭発表と大差なく、発表者と聴衆が存分に話ができ、自由に交流できる有意義な時間を圧迫していると感じた。そのため、面白くないと感じ、今回は、年会に参加しなかった。
※	2	ワークショップには一般演題から多く採用したとありますが、結局内輪でやっている印象が強いです。
※	2	分野が偏ったシンポジウムやワークショップだった。
※	2	全体としてスケジュールが詰まっていて、フリーな議論を行う余裕が少なかったと感じました。
※	2	ポスターの運営が非常に悪かった。演者が見つからず、討論ができなかった
※	2	全体的に議論が活発だった。
※	2	ワークショップのテーマが細分化されすぎており、院生の修論のような内容も見受けられたから。
※	2	ポスター発表の時間が長すぎた。ディスカッサーの存在感がなかった。
※	2	WSに行かなくてもポスターで十分であった。ポスターとWSの演題は分けた方がよい。また、ポスターでディスカッサーが回ってこなかった。

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	2	ワークショップのレベルが低すぎた。ポスターの演題が多すぎるため、もっと厳選してもよい。
※	2	討論中心は大賛成だが、もっと時間を取っても良かった。長すぎると疲れるので、イスを多数置いて欲しい。
※	2	ポスター発表を奇数・偶数と分けておきながら、前後に番号関係なく対応する時間を設けられていたため、3時間ずっとポスターに張り付かされた。
※	3	全体としてはよかった、とおもいます。ただ、やはりどうしても膨大な演題数であり、瞬間的に目に留めるにはある程度日本語のメリットもあるように思いました。
※	3	特に若手のポスター発表者にとっては発表のエンカレッジにもなってよかったと思う。しかし会期が通常より1日短い3日間しかなかったこと、ポスター発表の時間が長く、その間は他の口頭発表等がなかったことは、やや問題に感じた。
※	3	一般演題から多くの演題がワークショップに採用され、口頭発表することは良かったと思います。しかし、ワークショップのテーマが限定されていて、もう少しテーマを多く取ればもっと良かったのではと思います。ポスターについて、とことん議論を行えば、時間内に見たり、質問したりする演題数が限定されてしまい、1日で10題以上見ることは不可能でした。ディスカッサーをうまく機能させれば、見ることができる演題が増えると思います(ディスカッサーは、機能していたとは思えませんでした)。
※	3	大して前回と変わりなかった
※	3	ポスターと口頭の両方は負担が大きいと感じた。口頭発表した上にディスカッサーに来てもらうのは
※	3	参加できずこめんとできません。
※	3	会期が3日間になってしまったため、短かった印象が強い。
※	3	関連する分野のポスター発表が同日/同時間帯で自分の発表と重なるため、十分に討論できなかった。とはいえ、分散しすぎても不便であるため積極的に変更する必要は無いとおもう。
※	3	ポスター会場で議論は通常どおり、よかったです。ただ、ディスカッサー制がよいかどうか微妙なところですが、特に、ディスカッサーの人選はお互いに??な感がありました。また、英語でポスターを、という趣旨も大事だとは思いますが、敢えて国際化するのが必要というほど外国人はいない様子でした。もちろん誰にでも読めるということは大事だと思いますので、英語での表記も併せてポスターに書く、というぐらいが良いのではないのでしょうか?
※	3	今回は参加できなかったから。
※	3	N/A【不参加】
※	3	例年通りの討論の状態、特に議論が活発になっていたとは感じない。
※	3	日程も短かったし、平日なのに最終日ランチもなく、寂しい感じだった。専門学会がだんだん充実して行く中で、少し分子生物でくくるにはバラバラ感があった。関連発表も少なかったせいもある。去年の学会が気合いが入り過ぎて盛り上がっていたので、ことさら感があるのかもしれない。去年のアートもジャズもよかった。学会アプリはとても便利だった。
※	3	ポスター討論の時間が十分にとれた点は非常に良かった。一般講演の数が減ってしまった点が残念。
※	3	上記のようなコンセプトが感じられなかったから。
※	3	例年と変わらない
※	3	オーラルセッションがもう少し多いとよいのでは。
※	3	とことん議論するにはポスター会場で座れるスペースも少なかった。また、ディスカッションの時間が遅いと思えた。
※	3	とことん議論するなら、時間的にも空間(場所)的にもそれなりの余裕、ゆとりをもたせることが必要。「大規模な年会」と「とことん議論」は両立しない。どんな理想を掲げても現実と乖離しているのでは実効的ではない。
※	3	ポスター貼付け時間の期限を10時もしくは正午までには設定して全部のポスターが貼られた状態の時間をもう少し長くしていただきたい。ディスカッサーの対応もあまり意味が感じられなかった。
※	3	分子生物学会は、シンポジウムやワークショップをやる力のある研究者の待遇は良いが、ポスター発表をやる学生やポスドクを冷遇し過ぎだと思う。つまり、たった一時間程度のコアタイムのポスター発表に、1万円近くの参加費と年会費は取り過ぎです。生化学会のように、一般演題の口頭発表をもっと増やすべきだと思います。あと、ポスター貼って置いて、後は、遊びに行く的な馬鹿な公費の使い方をしたい研究者も減らすべきです。
※	3	例年に比べ運営上何か変わった事があったとは思えなかった。
※	3	ワークショップでの議論は例年通りと感じ、ポスター討論もディスカッサーが放送で呼ばれるぐらい例年通りと感じた。
※	3	神経系のセッションが少なかったのが残念。またワークショップ会場が満員で入れないことがたびたびあった。
※	3	昨今の特許等知財に関する理由により、未発表データの公表が控えられているため、論文で発表されている以上の情報は得にくくなっている。発表する立場からしてもやりづらい部分があり、討論を活発にする妨げとなっていると感じる。ポスター発表では人が集まっている所にさらに人が集まる傾向があるため、ディスカッサーは最初一人となりきつかけを作るという点ではとても良いサポーターとなっていたと感じた。
※	3	あまりポスター発表に参加できなかったため
※	3	自分が興味を持つ分野の発表が少なく、発表形式を気にするレベルではないため。
※	3	いわゆる普通の学会以上に「とことん議論する」仕組みが必ずしもあったようには思わなかった。
※	3	あまりまわっていないので、答えるだけの情報がありません。すみません。
※	3	ポスターの時間が長かった。
※	3	ワークショップに一般演題から多く採用したのは、良かったと思う。自分も採用していただき、いい経験になった。ディスカッサーの制度は分からない。個人的には、無理矢理質問を考えてもらうよりも、自分の話に興味のある人とディスカッションしたいと思う。
※	3	実際に学会に参加していなかったため、コメントできない。

質問6. 質問5.第37回年会コンセプトのように思われたご意見

質問5. 回答 1.よかった(賛同した)
2.よくなかった
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	3	いつもの学会と変わりなかったから。
※	3	今年も活発な議論が行われたと思います。特に今年だからという感じはしませんでした。
※	3	大きな問題はありませんが、少々学会が大きくなりすぎて焦点がはっきりしていない感じがします。
※	3	ポスターは、どうしても分野内の人との議論の場になる。同一分野の人たちとは、比較的小さな研究会などで、どうせ議論する機会はある。分子生物学会のように大きな学会の魅力の一つとして、他分野の講演を聞けるところにあると思う。前回の神戸での年会の方が、ちょっと外れた分野のワークショップを聞きに行くチャンスが多かったように思う。日程が短かったせいかもしれない。
※	3	これまでとの違いがよく分からなかった。

質問7. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	学部生にも配ってあげて欲しかったです。
※	少なくとも、ポスターはオンラインで良いかも。口頭発表のみ紙媒体で十分。
※	郵送されなかった。
※	持ち歩きに便利。スマホやタブレットを持っていません。
※	シンポジウムやワークショップ演題だけでも、要旨が載っていると助かる。
※	デザインは良かった。
※	例年より見やすく、使いやすかったです
※	聞く演題をメモしたりするので、冊子をなくさないでほしい。
※	印刷版の要旨集も必要
※	電子版だけでいい
※	氏名とタイトル、会場の場所ぐらいがわかれば、他はいらないので、もっと詰めて薄くしていただけるとありがたいです。小さくなってきたのは良い傾向だと思いました。
※	海外の学会で見られる細長の冊子もポケットに入れて便利だと思う。
※	A4判にして、ページ数を減らし、冊子を薄くしてほしい。
※	電子版の検索機能が十分であれば、問題ない。完全一致の検索はやめて、演題番号を123で検索したけど、not foundでした。会期中、3演題有るはずですよね？ P1-0123とP2-0123とP3-0123が。
※	A5判は支持するが、各ページもしくは見開きページの端にでも多少のメモのスペースがあると使い易い。
※	A5版の冊子は持ち運びに便利であると感じた。演題の題名は会場にいても冊子でチェックしたいので、冊子印刷体の作成はやめないでほしい。
※	A5版で、さらに薄い紙を使用してさらなる軽量化をお願いします。
※	メモ欄があったほうがよい。
※	とても良かった。紙を薄くするなど軽ければ軽いほどありがたい。
※	動物学会では、A3数頁のダイジェスト版を用意している。今回のA5判+上記のダイジェスト版+ITシステムの組み合わせがベスト。
※	スケジュール表があれば良い。
※	A4版の方が薄いので。
※	持ち運びが楽で、疲れが少ない。
※	A4版で今回の縮小率にすれば良いのです。SD card で配布してもらえたらありがたいです。
※	インデックスにおいてはあまりにも字が小さくて、探しづらかった。
※	冊子体を無くし、参加費を安くするべき pdf版のプログラム集をより充実させる
※	1.大会の規模を縮小する 2.プログラムと抄録がいっしょになった印刷物を配布する このようにすることがベスト。年会の内容に集中できる。
※	近年電子化が進んでいるとはいえ、やはり紙の媒体はメモやチェックをしやすいし、俯瞰的に見れるので整理がしやすく必須である。A4は大き過ぎると感じていたので、B5は丁度良かった。
※	内容は同じで薄い方がよい
※	地図や日程表のみにしてもっと軽量化したほうが汎用性が上がると思います。ポスター演題名はオンラインに任せて、口頭発表のアブストラクトが掲載されていたほうが良かったように思います。
※	A5判は持ちやすくてよかったが、A4判がダメだとは思わないのでA4判に戻してもらってもよい。プログラム集の方がアプリよりも見やすいことも多く、人によっては印刷物が好まれるので、簡略化もしくは不必要は望まない。
※	要旨はITでキーワードで特定の演題だけ探すのではなく、ばらばら目を通して、気になる演題に行けるよう、以前の冊子体スタイルを丸ごとPDFの冊子または分割PDFにして頂けるとありがたいです。アナログ世代には、ざっと見て必要なページだけ印刷して持ち歩けます。
※	分厚くなって持ちにくい。
※	必要なアブストラクトは自分で印刷していけるので、大きさはこれくらいでいいと思う。できれば、Author Indexだけでなく、key Wordでの検索もできるとよい。当日会場で、スマホで検索しようとしたがうまくいかなかった。
※	Abstractをつけるべき
※	必要な人だけ冊子体を届けるでもよいのではないかな。
※	小さくなったのは、とてもよかった。
※	冊子体を完全にやめれば、参加者はもっと準備して学会に臨むと思う。
※	大変機能的な冊子だった。次年度以降も同じ素材の冊子を配布して頂きたい。紙質、サイズ、重さ等すべての点で満足した。
※	冊子体は絶対必要
※	冊子版の利用状況と経費削減•CO2排出削減を考えると、プログラム集の冊子版は不要と思います。
※	ポスター部分は電子版だけでも良い。軽量化のために紙質を落としてもよい。
※	一時期あった英語併記などを削り、版もコンパクトになってよかったと思います。もうすこし薄いといいけれど、字の大きさはこれより小さいと見えないので、厚さのほうはこれで我慢します。
※	鞆に入る大きさでとてもよいと思いました。あとはもう少し軽くしていただくということかと思います。半分くらいの薄さだといいなと思いましたが、掲載内容はこれ以上簡略化できないと思います。
※	今のwebプログラム集の出来であれば、完全にそちらに移行しても構わない。
※	(1) 昨年までの冊子がないので正しく判断できないが、小型化した分、厚くなったような感じがするのだが...。(2) プログラム概要だけでも冊子体で提供してほしい。(3) 人名索引だけでなく、キーワード検索も冊子体でできれば便利。
※	メモ欄または余白がもう少し含まれていると良かったと思う。ただ、大きさはA5が素晴らしい。ページ数は今年の1.5倍くらいまでなら許容範囲と思う。
※	ちょっと字が小さい。
※	軽量であれば、大きさは問題にならない。

質問8. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	FreeのWiFiがほとんどつながらなかった。
※	検索機能がよかった。見学予定者数等の表示もよかった。
※	コメントが届いたらメールで通知が行くようにすると良いと思います。検索はとても快適でした。
※	昨年の「恋人募集」とかはなくなって良かったと思う。
※	全く使用していないので評価できない。
※	あまりいじっていませんでしたので、お答えできません。
※	HPからのリンクがわかりにくかった。
※	まだ、使い勝手に多少の難がある。全体と部分の対応をよりわかりやすく。要旨集を簡単にスクロールできるような形は可能か？
※	口頭発表一覧のところ、ワークショップ等のタイトルだけでなくオーガナイザーの名前まで見られると尚良いと思った。
※	落し物も含めて大会側から参加者へのアナウンスがリアルタイムにできるのがすごい。学会会場の地図なども入っているので「演題」のところに「地図」ボタンを用意してそれをタップすると地図状でピンが立つととっても便利になると思う。(特にポスターの位置)
※	システムは良かったのかもしれないが、会場内でのネット環境に限られていたので、有効に使いこなすことが難しかった。
※	基本的に便利だったが、演題のリンクの機能がもっと充実したらよかったかも。
※	Wi-Fiの接続が悪くタブレットが役に立たなかった
※	自分のポスター番号を簡単に調べたい、と思ったときに苦戦しました。
※	学会運営の基本に立ち、参加者自身が努力できることへは経費を使うべきではない。
※	興味深いにチェックをいれても、ポスター会場図に反映されないのが不満だった。広い会場なのでポスターの場所をマークしておきたいため、「興味深い」と「スケジュール」両方にチェックを入れた。結果、マイスケジュールが長くなってしまい、見にくかった。ポスターのところに行っても発表者がいない事が多く、ポスター発表者が今いるかどうか分かるシステムが欲しいと思った。発表者が手動で「今いるボタン」を押す仕組みとかがあって、こちらの「興味深い」リストにそれが反映されて、「今いるんだ」とわかるとありがたい。
※	キャンセルのnotificationは要らないと思います。system updateの回数が多すぎて、ダウンロードに時間を取られた。
※	iPADを購入していないため恩恵はなかった。surfaceでは利用できなかった。
※	タイムテーブルなどが使いにくいので、操作性をもう少し代えてほしい。癌学会のプログラムのほうが使いやすかった。
※	iPad等の携帯端末がないときわめて不便な学会だった
※	使用していないのでわかりません。
※	スマートホン(アプリ)で初めてシステムを利用しましたが、現行のシステムで十分活用できました。
※	福岡での年会の際のアプリ(Webページ?)の方が使いやすかった。
※	演題検索がいまいち。完全一致の検索はやめて。演題番号を123で検索したけど、not foundでした。会期中、3演題有るはずですよね？ P1-0123とP2-0123とP3-0123が。 パーソナルメッセージは、登録した人にしか送ることができず、もっと情宣して、登録者を増やすべき。
※	マイスケジュールで選んだものから、プログラムに飛べないのが非常に不便であった。プログラムの表示のされるサイズ等が、スマホ向けではないのも不便であった。
※	オフラインで利用可能なことを知らなかった。このため、多くの会場内で電波もwifiも届かず、利用に不満を感じてしまった。
※	久しぶりに参加したが、初めて利用したマイスケジュール機能は大変便利で良かった。
※	アプリの現在講演中の演題(だったかな?)が便利だった。
※	オフラインアプリがとてもよかったです
※	ITシステムを使用しなかった
※	存在を知らなかった。
※	昨年の大会は画面がもう少し視覚的で、わかりやすいものだった気がしております。
※	今年のダウンロードアプリは、とても使いやすかったです。
※	会場でのネット環境が不十分で、プログラムを閲覧できないことが多かった
※	環境や媒体がどうであれ、興味のあるテーマや研究にはなんとしてでも聞きに行くはず。流行に乗るのではなくて、生命の根本的な疑問に対してアプローチするなどの、科学的な興味を刺激するようなテーマやセクションを多く作る方が、次世代の若手育成にとっても大切。
※	「会場ナビゲーション」って何？ 以前有った、登録したポスターが地図に表示されるサービスが無くなって不便だと思っていたのですが、できたのですか？ できたのだとしたらアプリの使い方が分かりにくい。
※	メモやマイスケジュールの内容を他へ出力する機能をもう少し充実させて欲しい
※	Wifiの接続がうまくできなかった(私の端末のせいかも)
※	追加された情報は最新情報を網羅していたとは言えず、情報を更新したくてもポスター会場では速度が落ちて更新できなかった。
※	ポスター会場内の電波が悪く、使いづらかった。
※	マイスケジュールは以前はデフォルトでの表示が時間順だったと思うが、直感的にはその方が判りやすいし、使い勝手がよい。
※	役に立ったが、動作が遅くて快適ではなかった。
※	キーワードで検索すると全ての日程の演題がヒットしてしまったため、日付指定もできたら良いと思った。
※	ITも冊子も両方を使って欲しい。
※	ポスター会場内では、ほとんどwi-fiに繋がらなかった。そのため、ポスター会場内でオンラインの要旨を確認できず、苦労した。
※	全体のタイムライン(ワークショップ、ポスター含めた)ものが存在しなかったこと、ポスター会場図や企業ブース配置図がクリックでなく位置からの検索性が低かったこと、フロントページ移行のスマートフォン最適化がイマイちなこと、細かいUIやナビゲーションなどの点において昨年度までのシステムの方が使い易かった印象。ただし、オンライン化しスマートフォンでスケジュールが確認でき、電話帳のようなプログラム集を持ち運ばない方向性自体は是非今後も続けて欲しい。

質問8. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	マイスケジュールと興味深いのは2つにわけると必要がない 誰がマイスケジュールに登録したのがわかった方がいい
※	スマホを最近買ったばかりで、使いこなせていません。スマホを使いこなしている世代であればよいが、そうでない世代にとっては、ITシステムはなかなか評価が難しいと思います。
※	昨年の方が使い勝手はよかった。わざわざアプリにする必要があったのかどうか。学会が終わってすでに削除した。talkとポスターのスケジュール表を分ける意味が分からない。全体スケジュールとして一緒にするべき。参加者と発表者も検索は一緒に結果がどちらかわかればよいのではないかと。ポスターの時間など無線LANが重かった。パソコンで結果やデモを見せたかったが難しかった。
※	大変いいシステムだったと思いましたが、もし可能であれば毎スケジュールに登録した場合、ポスター発表が番号順にならずに奇数と偶数で分けられると良かったと思えました。
※	ITシステム自体は便利だが、今年のアプリは非常に使いづらかった。〇〇年会のときのアプリの方が良かった。
※	必須の流れだと思し、アプリにするというideaはよいと思ったが、アプリ自体が使いにくかった。
※	前回までのほうが良い。
※	実際に新機能はあまり使わなかったが、良いと思う。
※	ITは部分的には便利であるが、結局ざっと見回すのは冊子の方が便利。ITでなければこれまでより不便になるという事態は避けて欲しい。
※	ITシステムを利用できなかったので、評価できず。
※	必要なIT環境やツールはすでに各自で準備できる時代なので、ITシステムはもっと簡素化してもらって、参加費をもっと安くしてほしい。特に院生向けの参加費は今の半額ぐらいでいいのではないかと思った。
※	アプリでの検索(氏名など)はうまく動作していないように見える。明らかに存在するはずの発表が(例えば自分自身)検索されなかった。また、アプリを開くたびに、ほぼ毎回アップデートを要求されるのが非常に煩わしかった。上記以外はアプリの利用は非常に便利であった。
※	会場でのWiFiによるアクセスが困難だった。
※	今年のITシステムは非常に利用しやすかった。
※	全体として使いやすく今後の標準形が定まって来たと思います。主にiphoneで使用しましたがWiFiが途切れるときに不便を感じました。また頻繁に行われるアップデートに時間がかかりすぎる印象でした。
※	機能的には向上したかも知れないが、システム自体は昨年度のほうが使いやすかった。アプリは役に立ったが、立上げ毎に更新データ受信するのは使い勝手が悪かった。
※	どれくらいの方がIT版プログラムを使っていますか？今回はメーカーが作っているためか、ユーザーが作っていた昨年、一昨年と比べて(具体例が挙げられませんが)シームレスさに弱い印象を受けた。
※	慣れる時間が足りなかった。いつも同じ形式でやって頂ければ、そのうち慣れるかと思いますが、毎回使い勝手が違うとそれはそれで大変。
※	去年の飲み会や就職活動等の機能は非常に良かったので復活して欲しい。
※	あまり使い勝手がよいように感じなかった。iPadで見ていたが、pdfをダウンロードするとマイページからログアウトしてしまうので不便だった。
※	個人的には非常にありがたいシステムであるが、年配の会員やITに不慣れな会員が、アプリのサイトに辿り着き、ダウンロード・インストールまでできたのが気になる。
※	ITで便利になったのは実感しているが、自分自身はそれをフルに使いこなせていないのが残念。
※	前年のシステムの法が使いやすかった
※	携帯電話を使用して、現在開催中のWSを見ようとしたらアプリとデータの同期が大変遅かった。処理能力を増強してほしい。
※	使用しなかった
※	つい面倒になって、要旨は読まなかった。ただし、記録としての面からも、要旨集はしっかりしておいて欲しい。
※	前のシステムのほうがいろいろないい点が多かったような(似た発表をさがしやすいとか)。

質問9. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

※	記述
※	前回と同じようなテーマもいくつかあったため、新しい観点のものを増やした方がいいと思います。
※	新しい発表が少なく、おもしろくなかった。
※	シンポジウムが少ない一方でワークショップが多くて、午前中は関連分野が少なく、午後は関連分野が重なりすぎて選択しにくいといけないということになったのが、良くなかった。
※	同じ時間で似たようなセッションが走りすぎている
※	原則やりたいひとがやればよい。内容を見て、実行委員がバランスをとればよい。
※	最近の流行に沿っているとは思いましたが、テーマというか、研究分野が偏っているのではないかと感じました。
※	テーマ自体は広いものが多いが、演者の講演内容がごく限定されたものに思えるため、それを全て合わせてもテーマ名から期待される分野の広がりや達成できていないように思える。
※	奇をてらったようなテーマが多く、あまり参加したくなるようなものが少なかった。
※	具体的になにがどう、ということうまく表現できないが、何故かあまり興味をそそられなかった。いつもは、“これ！”というシンポジウムがあるのだが、今回はなかった。そもそもシンポジウムの数が少ない？ 午後のワークショップを午前にまわしてもよかった？
※	公募シンポが無い。シンポ・WSの内容的重複も多々ある。
※	すこしメンバーを変えたらどうかと思う。シンポジウムで過去〇〇年前にやったラボは、分野が異ならなければ、次回はできないなど、規程を決めたらどうか。海外の学会では、メンバー交代は多いと思う。
※	神経科学系のセッションが少なかった
※	そうは書いていませんが、科研費の新学術領域毎にシンポジウムが組まれているような雰囲気もあって、それならいっそ領域名を前面にだしていただくのがわかりやすいと思います。また、ほぼ同じ内容の演題を、ラボの代表者がシンポジウムで話し、筆頭著者がワークショップでも話す、というようなのがいくつか見受けられた。ひどいのはポスターも使いまわしでした。近い領域のシンポジウムとワークショップの連携はできればあるほうが良いと思います。
※	もう少しテーマ数があった方がよいと思う。
※	神経系のもものが少なかったので増やして欲しい
※	毎年同じ人ばかり・・・
※	少なくとも世界共通のトレンドには合っていない。ある意味独自のトレンドで設定されている。ガラバゴスは悪くない。
※	シンポジウムのテーマ設定についてのコンセプトが明らかでない。
※	流行は重要だが、分子生物学の基幹となる分野がないと感じた。
※	一定の科学分野関係者で占められていたような印象を持った
※	食、環境に関するテーマも含まれるとよいと思う。
※	DNA (DNA修復、クロマチンなど) 関連の話題が3日目に偏っていたように思う。もっと満遍なくテーマを設定すべきだし、同じ時間帯にテーマがかぶるようなことがあってはならないと思う。
※	数が少なく、選択肢が狭いと感じた。ワークショップ程度に枠を増やした方がよい。内容自体は旬な話が選ばれており、満足できた。
※	保守的なテーマが多く変化に乏しい
※	今回特に神経系のセッションが少なく感じた。いつもなら大体どの時間も関連するワークショップなどがあったが、今回は大会を通して2個しかなかった。
※	幹細胞、再生医学関連のシンポジウムをもっと増やして欲しい。
※	テーマが少なく感じた
※	大きなラボのビッグデータや大規模な研究などの発表は、お金をかけられない大多数のラボの研究者にとっては大切な情報ではある。
※	特にワークショップ全体と併せると、偏っていることは誰が見ても明らか。
※	もっと内容も数も充実してほしい。
※	テーマ自体は同じでも偏っていてもよいのですが、講演者や内容が毎年同じようだと、もったいないと思います。
※	ワークショップの要旨に書かれている研究の範囲が狭すぎる。
※	シンポジウムはあまり聞きに行きたいところがなくて、午前中は困りました。逆に午後のワークショップは複数聞きに行きたいところが重複して困りました。
※	どちらかと言えば、偏っていると思うが、そもそもシンポジウムはそういうものだし、タイムリーな話題が取り上げられるべきだと思う。
※	これまでの分子生物という感じはそれでよいが、新しいチャレンジもほしい
※	いつもの偉い先生方がシンポジウムを仕切り、分子生物学会を権威を発現する場になっているのを見ると残念に思う。結局、いつもどおりのテーマ、いつもどおりのシンポジウムになっていた。
※	毎年同じ人が発表している 特に、ヒトの名前を冠にしている意味が分からない。何を基準に選んでいるのかすら。
※	自分に関係あるテーマが見つからなかったため、そういう点では、テーマが偏っていたように感じました。
※	もうすこし、同じカテゴリを日程をばらして頂くと、嬉しい。フルに参加できない場合があるので。
※	分野、材料横断的に楽しめるもの。教育的効果のあるもの(倫理とかじゃなく、研究分野で)
※	偏っていたけれど、オーガナイザーは自分の名前が出るだけあって気合が入ったシンポジウムだったと思います。
※	食品成分などを含んだ栄養生化学的なテーマをもっと入れてほしい。
※	企画者の名前ははっきり言って不要だと思います。不快です。
※	医学関係のテーマが少なかった。医学関係の著名なラボからの参加が少ない。
※	限られた枠内で企画しようとするれば、テーマが偏っても仕方がないと思います。それをワークショップでカバーするのであれば、それでもいいでしょう。
※	分野が多岐に渡る学会なので仕方ないのだが、もう少し免疫関連のテーマを増やしてほしい
※	私自身は〇〇〇さん、〇〇〇先生のシンポジウムに興味深く拝聴しましたが、会場からは殆ど質問が無かったので、ごく一部の参加しか興味を持ってないテーマ設定だったのかもしれない。
※	内容についての印象が薄い。どうしても、寄せ集め的に感じている。

質問9. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	日本語で良いのでは。
※	具体的に聴きたいところなどを検討しておりませんでしたので、お答えできません。
※	そもそもシンポジスト少なく、よぶ能力のなさを露呈している。
※	お金があれば...
※	CSHLに参加しました。非常に面白かったです。でも聴衆が意外に少なくて驚きました。
※	必ずしも招聘者がいることで議論が盛り上がるとは限らない。海外の学会へ参加すれば学べることを、中途半端に行おうとしているような印象がある。むしろ、キーノートスピーカーを1-2名招聘する方が勉強になる。
※	英語での発表、ディスカッションをもっと活かす意味でも海外からの参加者が多い方が良いと思います。
※	よくわからない
※	一般演題からシンポジウムへの採択も行ってほしい(以前の大会で、そういうシステムがあった大会もあったかと思えます)。
※	外からのシンポジストはもっと減らしたほうがよい
※	ポスター前で日本人同士で話しているときでも、気配りして、名札が外国の方なら、英語での話に切り替えるべき。みんなで盛り上げないと、海外参加者(招待者ではない)は増えない。
※	シンポジウムオーガナイザーが偏っている。毎年同じ様な方々、あるいは、「何故この方が？」という方々がオーガナイズしており、新鮮味が無い。
※	コンセプトが中途半端な気がする。各海外研究者の講演のレベルは高いと感じたが、自分に取って特別面白いものがあったとは思わない。海外研究者との交流は小規模なミーティングに任せれば良いのでは？
※	数が少なすぎる。
※	聴講人数と会場の大きさの予想が当たってなくて、入れない会場が多かった。もう少し席に余裕が欲しかった。
※	シンポジウムの数はもう少し多くても良かったかも知れませんが。会場数との関係があるかとは思いますが。また、招待講演が多くあるより、シンポジウムが充実しているほうが個人的には好きですので、今回の学会は良かったと思います。
※	海外のお金をかけずに良い研究をしている新進気鋭の若手研究者をもっと招待すべき。
※	海外からのシンポジストを増やすのには反対です。日本語主体の学会としての、価値(データ漏洩を気にする必要がない)を高めるべきです。英語でやりたい場合、海外の国際学会に出れば良いです。
※	いなくても良い
※	英語はやめてください。日本語で聞きたいです
※	運営のコストの面で、海外からのシンポジストの数は気にせざるを得ないと思うが、多いか少ないかを議論する必要がなくなって初めて、グローバル化に成功していると言えると思う。
※	海外からの発表者が少なくなっている
※	海外からシンポジストを招くための経費に照らして、招いたことによる効果をどのように評価するのがあいまいなように思いました。
※	日本人は日本語で発表してもいいと思いますが、日本にくる海外の人は、きっと日本が好きだから、英語でスライドを作っておけばそんなに不満に思わないのではないのでしょうか。
※	日程の割に多いと思う。ワークショップの同時進行が多すぎて、聞きたい発表が聞けない。

質問10. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	座長の顔ぶれが毎年ほとんど同じである印象を強く抱いている。新しい人が座長になれるような工夫も必要かもしれない。
※	ワークショップあたりの演題数がやや多すぎると感じた。
※	英語での発表・質疑応答は、本当に必要か？結構な御所の先生も英語の質疑がかみ合ってなかった。国際化したい気持ちはわかるが、日本語でとことん議論する方が、深みがあってよい。日本人の英語を聞いても、学生の英語の勉強になるとは思えない。英語はネイティブの英語を聞かないと意味がない。
※	具体的に聴きたいところなどを検討しておりませんでしたので、お答えできません。
※	ワークショップを行う部屋が狭く、座る事ができない。
※	上記を参照
※	もっと多くて良い。
※	ほぼ全ての部屋が立ち見どころか廊下までヒトがおり、狭いと思う。逆にテーマと講演会場を増やしてヒトをばらけさせた方が良かった。
※	エビジェネティクス・クロマチン関係で重複したワークショップが多かった。また、日時が重なっているケースが多く、聴衆が分散されてしまったと思う。いっそ、同じテーマで大会場を使って何日かに渡って開催した方が、聴衆の便のためにはいいと思う。
※	前述
※	学生やポスドクの発表が少ないと思うので、一定以上プログラムに組み込むことを義務付けてはどうでしょうか。年配の人は、何度も喋っているのもういいです。
※	すこしメンバーを変えたらどうかと思う。シンポジウムで過去〇〇年前にやったラボは、分野が異ならなければ、次回はできないなど、規程を決めたらどうか。
※	セッションの数、一般演題からの採択数は適当だが、テーマに偏りがあるように思う。今日の分子生物学は、広範な課題を取り扱う学問となっているので、課題毎にセッションを設けるだけでなく、関連のある課題、研究者の融合、協力を推進するワークショップが出てくると、多くの人に役立つのではないかと感じる。シニア研究者による新学術領域のサブミーティングのようなものが散見されるが、身内の集まりにしかならず、あまり感心しない。若手(概ね40歳まで)が企画するものを一定数採り上げて欲しい。
※	日本語のワークショップを増やしてほしい。
※	神経系のものが少なかったので増やして欲しい
※	セッションの終了時間を大幅に超過することがあったので(私が発表したセッションでは30分ぐらい超過していました)、ワークショップの時間枠をもう少し長くてもいいと思います。また、ワークショップのテーマ数をもう少し増やして、口頭発表の数を増やしてもいいと思います。
※	ワークショップで発表された内容が、「これからこんなことをします」という所信表明だけに終わっていたものがあり、何とか、このような発表をワークショップで採用するようなことはやめたほうが良い。
※	ワークショップ会場が小さすぎて入れないところが多かった。
※	類似のテーマが並行して走っている。そのような場合は会場を隣接させるなどの配慮をしてほしい。
※	ワークショップ会場が狭すぎて、人が溢れていて入れずあきらめた。盛況なのはいいことと思うが、以前の学会ではモニターテレビなどがあり、外でも見られたと思う。経費の関係とは思うが復活してほしい。大抵の学会会場は、メインホールが大きすぎてガラガラ、あとは窮屈で見にくい、というレイアウトになっているので2会場ぶち抜きでも狭い場合は工夫が必要だと思う。
※	毎年の事であるが、広い部屋で人がまばらな会場と、狭い部屋で人が入りきれない会場があった。あらかじめ、どのくらい来場者があるのかの予想は難しいと思うが、今回の大会における聴衆の人数の記録を基に、来年度はこの状況が是正されることを願っている。また、現在どの講演が進行しているのかが、会場内で分かるような掲示がほしい(会場の入り口にはその掲示があったが)。
※	ワークショップが重なるのは何とかならないか？
※	テーマにやや偏りがあった。明らかにオーディエンスに対して席数がすくなかった。立ち見は仕方ないが、部屋にすら入れないセッションが多数あった。
※	部屋によっては、人数が多すぎて入れなかったため、採択数を増やすか、部屋を広くしてほしい。あるいは、以前の学会であったようなリアルタイムで、別室放送するシステムがあるとよいと思った。
※	セッション数は適切であるが、同一時間帯で開催されているため限られたものしか聞くことができない。午前中の空いた会場を活用するなど時間帯をずらして開催してほしい。
※	自分の専門のワークショップのうち3つが同一日の同一時間帯に行われた。ここ数年似たような傾向があるので、類似のワークショップは1日1つに限る、あるいは午前中のシンポジウムの時間帯にワークショップを入れて1日2件とする、といった方法を提案したい。
※	ポスターよりもトークで聞く方が効率が良いので、採択数をより増やすべきと思う。
※	シンポジウム、ワークショップの数が少なかったと思います。
※	多すぎる 重複している
※	部屋に入れず、参加できないワークショップがあった。現在、活発(?)な分野などは、もう少し大きい部屋にするなどの対応が欲しかった。
※	ワークショップの発表者を見ていると、一般演題から多くを採用している、というより、既に採用が決まっている枠が多いように感じた。個人的には、神経分野のセッションがもう少し多いとよかった。
※	似た趣旨のワークショップが同時時間帯に多数開催されたのは残念
※	集まりすぎて入れない会場があった。モニターを使って中継してほしい。
※	多数のワークショップが同一時間帯に集中しすぎていた。
※	数がすくない。
※	ワークショップの件数が、少なく残念だった。来年度は、もとの件数に戻してもらいたい。
※	今回の学会で一般演題からの採用が多くあって良かったと思いますが、ワークショップの分野がある程度限られているため、採択されにくい分野とそうでない分野があったように思います。今回は、会期が3日だったこともあって、ワークショップの数が限られるのは仕方ないと思いますが、その点ご考慮頂けるといいかと思います。ワークショップは、混んでいる部屋もあって、もう少し部屋多く使えて、同時にワークショップが多く開催できると良かったとは思っています。

質問10. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	会場が狭すぎた
※	ワークショップによって発表時間の幅がまちまちだった。発表時間が長ければ仔細にいくだけなので、各研究者の発表時間を短時間にして、エッセンスだけを話してもらうことで、口頭発表者を増やすことが大切だと思う。質問はポスターで受け付けるくらいの明確な区切りをすれば、今の倍は口頭発表が増える。ワークショップによっては、座長と内々の仲の良い人達で構成されているものがあるのは仕方がないとしても、もっと積極的に若手や新参者に門戸を開いた方が良かった。
※	会場が狭く入れない事が度々あった。もっと広い場所にするのがベストだが、できなければセッション数を増やして人を分散させてほしい。
※	テーマ・セッション数を増やして4日に戻してはどうか。またその際、関連性の高い分野は2日つづくような組み方がよい。
※	一般演題からの採用は継続してほしい。いつも同じような顔ぶれとか内容だとつまらない。
※	ゲノム複製・組換え・修復のような関連するトピックが(この場合は三日目に)集中してしまっていて、今回は非常にパラレル数が多かったこともあり、割り振りはもう少し検討して欲しい。また、そもそもパラレル数が多すぎる。一般演題からの採択数自体は多めの採択は良いと思う。
※	ワークショップで話をした演題もポスターに出しているのは、良かったと思います。invited speakerにポスターをお願いするのは、申し訳ない気もしましたが...
※	シンポジウムは偏っていてもよいが、ワークショップは、数がどうこうよりも「テーマを偏らせない」ことが、学会として重要だと思う。
※	ワークショップには分子生物学会の将来をうかがわせるセッションがあるべきで、徹底的に多様性を追求すべきだと思う。
※	片寄っている
※	重複が多すぎる。オーガナイザーは発表するべきでない。
※	ポスターの内容を超えたミニシンポジウムの感覚であったので、ポスターの一部を口頭発表するという主旨であれば、もっと時間を短くして演題数を増やすべきであると思う。
※	部屋が狭く、人が入りきらなかった点を改善したほうがよいと思います。
※	3日間だったので仕方ない構成だと感じた。
※	内容は素晴らしいものが多く、オーガナイザーは発表者を適切に選んでいると思った。しかし、会場に入りきれない人があまりに多く、途中で会場を変更するのは非常に難しい状況だった。小胞体ストレスなどは会場が狭い場合には中継を組めれば良かった。
※	会場の選択が不適当なセッションがあった。会場外にも人があふれるような「人気」のあるセッションは大きな会場でできるように調整は可能であるか？
※	セッションが多すぎで見たい所に行けないところが残念ですが、全般良いプレゼンが多かったと思います。一般演題からの採用数がどれだけの情報がなかったように思います。
※	関連分野のワークショップが同一日に重なるのは、学生にとって余り望ましくないと思います。
※	どれが一般演題からの採用なのかよくわかりませんが、会場が超混雑もしていなかったため、セッション数も適当だったと思います。
※	出席したワークショップについては、多数の応募から選んだという座長のコメントとともに多くの一般演題からの採用があり、座席数も足りない傾向があった。ワークショップ数が少ない、あるいは、テーマの偏りがあるのではないかと感じた。
※	hotな話題をワークショップにするのは理解できるが、若干偏りがあったように思う。
※	大きな学会なので仕方ないが、同時並行のセッションが多いため、聞きたいセッションが複数かぶる。また、演題に応募する際も似たようなテーマはあるがどれに出すのが一番しっくり来るのか、分かりにくかった。
※	似たような分野のWSが同じ日に集中していたのがイマイチだった
※	医学関係のテーマが少なかった。医学関係の著名なラボからの発表が少ない。
※	部屋が狭い。開始時間に遅れると入れないなどが多々あった。
※	ワークショップの数が少なかったのではないかと。一般演題から選ぶのであれば、種類と数を増やした方がよい。
※	植物関連が少ない。
※	会場が小さすぎて入れないセッションが幾つもあったのが残念でした。
※	テーマが明確でなかったり、狭い分野に限っていたりで、一般演題からの採用も少なく、もの足りない印象だった。

質問11. ディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	教育的にいいと思う。
※	専門外の方がディスカッサーになった場合、バラエティに富み過ぎていると、英語のポスターだと馴染みが薄い内容に対して、なかなかきつかったと思います。自身の経験からです。
※	ディスカッサーをしましたが、若い方と濃いディスカッションができて良かったです。
※	ディスカッサーは自由度が減るので、担当者の労力の割に良くないと思います。
※	・来ない人がいた。・専門外で分からないと言って、去って行った方がいる。適材適所に配置されているのか、疑問に感じた。
※	ディスカッサー自体はよい制度だと思いますが、熱心な討議がなされているところでは、あまり必要ないような気がします。
※	あまり機能していなかった。
※	参加していないので様子はわかりませんが、必ずしもディスカッサーは必要無いのではないかと考えています。
※	試みは評価していますが、英語ではdiscussantが適切と思います。ずっと違和感がありました。
※	研究室の学生の発表にディスカッサーが来なかった。他でも、ディスカッサーがいなくても議論はされていたと思う。
※	ディスカッサーをやりましたがレイトアブストラクトの発表で、分野がばらばらで苦劳いたしました。
※	ディスカッサーにより、進め方に違いがみられた。その場の参加者も説明がきけるような進め方がベター
※	ディスカッサーとしてはその日のポスターを見て回れないのが欠点であった。
※	ディスカッサー制？をよくしらないし、導入されていたことに気づかなかった。
※	ディスカッサーに気づかなかった。来たのかもわからない。
※	不要では？それなりに盛り上がっていたように見えた。
※	もしディスカッサー制度の事前アナウンスが不足していると思う。分子生物学会の大きさと、ヒトが多すぎてディスカッサー制度は難しいと思う。
※	私自身の発表には、ディスカッサーの先生はいらっしゃらなかったです。
※	ディスカッサーの方が、(遠慮されて)他に聞いている方が終わってから質問してくださった。他の人がいても議論に入ってきていただいたほうが、活性化につながると思います。
※	ディスカッサーに出会えませんでした。
※	ディスカッサーの人が大変そう。2時間、見たいポスターを尻目に審査員の仕事をしなければいけないのは辛そう。
※	わからなかった。
※	ディスカッサーが来てくれなかった。
※	関連分野のディスカッサーになったが、その為に、自分が本当に聞きたいポスターで議論することができなかった。
※	ディスカッサーいなくても、活発な議論が一般研究者からすでに 行われており、ディスカッサーの存在自体が疑問？
※	ポスター発表はせずに、ディスカッサーを担当した。専門から遠い分野だったので、下準備する必要はあったが、意外と興味深い議論ができた。また、普段、あまり関わりのない分野の研究者たちのサイエンスに対する考え方を垣間見ることもでき、いい刺激になった。
※	ディスカッサーがどこにいるのか分からず、その存在価値を全く見いだせなかった
※	時間的な縛りがあって発表しにくかった。
※	必要ないと思う。
※	私のposter発表時にはディスカッサーの先生が来ませんでした。ただ、他の方のposterを見ていた際にディスカッサーの先生が回って来られて、その時に活発な議論をされていました。従って、ディスカッサーの先生がちゃんと回ってくるのであれば、制度的には良いと思います。
※	ディスカッサー一人で質問しても意味がない。
※	発表内容に即して分類されているとはいえ、割り当てられたポスターがディスカッサーの専門と異なる場面をよく見た。深い議論ができたとは思えない。人が集まっていないポスターにはそれなりに理由が有る。そこに素人のディスカッサーが行っても、何ら盛り上がることはない。ある程度の自然淘汰は必要だと思っている。ディスカッサーを作りポスターに行かせるよりも、ポスターを見る機会を増やす方向に変えて欲しい。例えば、現在では奇数・偶数で時間を分けているが、自分の発表時間のポスターには行けないため、もっと多くに分けて機会を増やして欲しい。
※	発表者が時間を守らないのは困る。
※	誰がディスカッサーか分からなかった。
※	ディスカッサー制をしくなら、マイク等を利用して複数の人とのディスカッションを可能にしないと、ディスカッサーの意味がない。ディスカッサーが単に1対1で質問するのなら、ディスカッサーではないと思われる。
※	ディスカッサーが居なくとも、充分、議論が活発だった
※	ディスカッサーを努めたものです。ポスター1つあたりの時間が足りませんでした。ポスターの説明を聞くだけで10分はかかります。ポスターあたり20分あれば足りそうです。
※	ポスターを説明してもらっている途中で、ディスカッサーが「ディスカッサーなので最初から説明して下さい。」と言って割り込まれた。1、2回ではなかった。はっきり言って邪魔。 討論者がいなくて1人でぼつんと立っている発表者のポスターを中心にディスカッサーが聞きに行けば良い。
※	ディスカッサーがいなくても盛り上がっていたポスターが多く、必ずしもディスカッサーが存在する必要はなかった。
※	ディスカッサー制度はどのくらい効果が上がったのか、疑問である。そのポスターが扱う分野に関してディスカッサー自身が必ずしも良く理解しているわけではないので、ディスカッサーのよりdiscussionが非常に活発化した、とは言えない部分もあるのではないかと、思う。また、長時間にわたりディスカッサーを拘束することになり、その労力に見合った効果が上がったのかの検証が必要と思う。
※	全く誰も来ないポスターをなくせて良かったと思う(特に学生さんはかわいそう)。普段は訪れないようなタイトルのポスターも議論してみるとおもしろかった(ディスカッサーをやったので)。
※	ディスカッサーいませんでした。
※	あまり人がこないポスターにも最低ディスカッサーはきてくれることになる利点はあるが、基本的には自発的なディスカッションが中心となるべきで、ディスカッサーは不要と考える。
※	自分の発表近辺ではディスカッサー制はうまく機能していなかったと感じた。ディスカッサーの先生に対して、専門外の発表内容で議論を盛り上げるよう要望するには無理があると思う。自然の成り行きにまかせるほうがベター。

質問11. ディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ディスカッサー担当者が前のポスターで時間を使いきったのか、さぼったのかは知らないが、自分のポスターには来なかった。そもそもポスターは、研究内容に興味がある人に来てほしいのであって、機械的に分担された先生と話したいとは思わない。発表者が見てほしい先生を指名できるなら(論文のレフェリーを指名するように)、この制度にも意味があるだろうが、そうでないのなら時間枠が無駄に長くなっただけの制度だと考える。
※	ディスカッサーによって、担当枠の中の複数人と議論する形式も見かけたが、ほとんどは個別にひっそりと議論していたようで、参加したかったがどこで誰と議論しているのかわからなかった。
※	必要ないと思う。
※	ディスカッサーの先生が大変だと思いました。ポスターは自由討論のみで良いと思います。
※	ディスカッサーが来ませんでした。
※	ディスカッサーの討論は行わずなら、後より先に行った方がよいのではないかと思います。
※	ディスカッサーの目的をみんなが理解してないような場面が多々あった。
※	ディスカッサーを仰せつかったが、分野がかなり離れていたためにあまり貢献できたとは思えない。
※	あまりメリットは見えなかった。
※	やめるべき。意味なし。
※	ディスカッションのきっかけを生みだそうとされていたのは理解できます。しかし、科学は元来自由な好奇心に基づくもので、学問の自由な雰囲気は損なわないか、さらには型にはまった学会員ばかりにならないか、型破りな学者・若者が近寄らない学会にならないか、心配になりました。
※	ディスカッサーの負担にならないような配慮も必要であると思う。また、ポスター会場でのアナウンスの音が大きすぎて、ディスカッサーを呼び出すアナウンスなどがポスターセッションの邪魔をしていた。発表者の声がかき消されて聞こえなかった。呼び出しは必要ない。
※	ディスカッサー制がないとみんなすぐに遊びに行ってしまうのでとてもいい制度だと思いました。
※	ポスターセッションの開始と同時にディスカッサー討論をはじめたらどうか。間延びした感があり、また個別の討論がすでに始まっているため、ディスカッサーのまわりに聴衆が集まることのないように感じた。
※	大部分は真面目なディスカッサーだったが、ディスカッサーによっては役割を全く放棄している人も少なからず居て、ポスター発表者がどうすればいいか茫然としていたセッションもあった。ポスターが有ってのワークショップ、シンポジウムだと思うので、ポスター発表者を蔑ろにする非常に失礼な行為だと思う。
※	担当したのは「その他技術」です。まず、ポスターの張り逃げが1課題ありました。他のポスターには比較的人が集まっていたので、逆に目立ちます。また、どうもディスカッサーが現れなかったらしく、担当外のポスター展示者からディスカッションをお願いすると言いに来られたのは、予想外にうれしいことでした。準備はしていませんよとお断りをした上でお相手しましたが、このような場合には適当に前後のディスカッサーに依頼するなどの対応が必要かと思えます。今回はたまたまなじみの分野でしたので踏み込んだ対応できましたが、常に可能なわけではありません。
※	興味のないポスターに時間を取られるディスカッサーの先生方も気の毒だし、聞きたいポスターでディスカッサーが無駄な話をしていると邪魔なのでやめて欲しい。
※	ディスカッサーがきちんと時間内に来ないケースも多かった。必要なかったのではないかな。
※	発表者はディスカッサーに対して何か思うところはあるだろうけど、聞く側にとっては特に絡みもなく居ても居なくても関係なかった
※	ディスカッサーによる活発な議論を見なかった。
※	1人のディスカッサーの担当数が多すぎ、討論時間を過ぎてもディスカッサーを待機することになるケースが多く見られた。
※	3.の補足としての意見:発表者が不在になる演題を出来るだけ少なくする意味で効果があると思う。その結果として3の結果になったと思う。
※	この制度を設けることには賛成だが、実際には分野違いのディスカッサーが一人でポスターに来訪し、少しの質問をしただけであり、ディスカッションが盛んになったという結果には結びついていないようだった。ポスターの座長のような位置づけならばもう少し意味のあるものになるように思う。
※	不人気ポスターにとっては良いと思う。
※	ちゃんとディスカッサーをやっているところとそうでないところがあった。ポスターの議論時間を延ばすだけでいいと思う。
※	意味があったかは不明。
※	良かったと思うが、人数も必要で準備側の負担も大きいと思うので、必ずしも継続する必要はないとも感じた。大会長次第で時々実施しても良いと思った。ただ、自分が指定されたセッションは比較的活発に議論されており、ディスカッサーは特に必要とされていないように感じた。
※	ディスカッサー性の希望を演題登録時に求めている。内容やキャリアによっては知り合いの雑談になっており誘導が欲しい場合があります。一方で、シニア同士では必要な情報をさっとやりとりして多くの情報を得たいときもあります。
※	演者も発表を聞きたいため、演者を拘束するような制度はよろしくないと思います。ディスカッサー制にするのであれば、細かく時間を決め、演者を拘束する時間を10分間と必要最低限にする工夫が必要だと思います。また、ディスカッサーも自分が興味のある発表を聞きにいけないので、それをどうにかする工夫も必要だと思います。
※	ディスカッサーを担当させていただいたこと自体は普段話を聞かないような話を聞けよ経験となったが、そもそもディスカッサーを入れなければ「とことん議論」できないような研究・学会はサイエンスとしてはダメなのではないか、とも思う。ディスカッサーという仕組みではなく自発的に議論を促す本質的な仕組みこそが必要なのでは。
※	学生発表のポスターの前で「ディスカッサー制は無意味」と発言しているPIがいたので、自分がそのポスターのディスカッサーだったのだが、そのPIが著者に入っているポスターは全てスキップした。不特定多数の人が出入りしている学会会場で、世の中には不意なことをいう人もいるものだとびっくりした。非常に印象に残る経験であった。なお、これはあくまでそのPI個人の資質の問題であり、記入者は、ディスカッサー制度には概ね賛成である。
※	自分はディスカッサーでしたので、実際にポスター発表した人がどう思っていたのかはきいてみたいです。すでに他の人とディスカッションしている場合が多いので、うまくその話に入ればよいのですが、さえぎるのはよくないと思い、少し待ってたり、あるいは後からにしたりしていると、最後は時間がなくなってしまいました。(一応、全員とディスカッションできたので、役目は果たせたかと思いますが、すでに人がいる場合に、入り込むのが難しいと思いました) 逆に、あまり人が来ない演題には、ディスカッサーが話しかけてディスカッションできるので良かったと思います。

質問11. ディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	残念ですが、ディスカッサーの方が議論を盛り上げる雰囲気にならない場合が多いように感じました。時間的な問題かとも思います。
※	担当になった方の負担が大きいのでは、と思いました。
※	ディスカッサーの担当になっても、お茶が1本支給されただけだったとか。労力を割いてディスカッサーをするのだから、参加費を安くするなり、名前を公表して感謝する場をつくるなり、もう少しリスペクトする仕組みがあるとよいと思うのだが。
※	上述の通り、良くなかったとは思いますが、なくても良かったと思います。
※	せっかく実施したが、初年度ということもあって、周知が足りなかった。ただ、よいideaだと思うので、これから少なくとも数年は継続することが重要。
※	ポスター発表をしましたが、ディスカッサーの先生が来られたのかわかりませんでした。
※	担当ディスカッサーが不在でした。少なくとも私のポスター発表には質問に来ませんでした。
※	自分の発表でディスカッサーがいたのかよくわからなかったので、評価できない。
※	ディスカッサーは割当がある義務だからディスカッションをしていたものも多く、ディスカッサー制は機能していなかったと言える。そもそもディスカッサーが必要なら、そんなポスターセッションなんて、なくてよい。
※	問題はあまりヒトの集まっていないポスターをどうするかが大切。
※	参加していないが、面白くないと感じた。小規模の学会だと良いが、分子生物学会の規模では、ディスカッサー制は止めてほしい。
※	ディスカッサーの立場からして、ディスカッサー制度が徹底されていなかったのか？質問者が長時間いて割り込む形で入っていき、全部のポスターを見ることができなかった。また、内容も多岐に渡るので、必ずしも的を射た議論であったか疑問が残る。以前行ったように、ディスカッサー2人で回るともう少し活発な議論ができると思う。
※	ディスカッサーは来ませんでした。何の目的でこれが導入されたのかはわかりませんが、学生のポスター発表ならともかく、学位取得からそれなりに時間が経った研究者や教員には不必要な気がします。逆に、ディスカッサーしか来なかったとなると、あまりいい気分はしないですね。
※	制度としては良いと思うが、発表者もディスカッサーもルールを守ってこそ機能するものだと思う。
※	ディスカッサーがたいへん。
※	上にも書いたが、自分はディスカッサーよりも、自分の発表に興味を持ってくれる人とディスカッションしたい。
※	ディスカッサーを見かけなかった。
※	ディスカッサーを待っていたが来なかった。異なる分野でディスカッサーがまたがっていたためかと思います。
※	ディスカッサーを担当しましたが、その日はほかのポスターを聞くことが全くなかったです。
※	演者がどこのにいるかわからなかった、発表時間大まかに決めて欲しい
※	ポスター賞などを選ぶならば良いが、単に議論するだけのディスカッサー制度にどの程度の意味があったのか、不明である
※	ディスカッサーを務めた立場からよいと評価します。ポスタープレゼンターは学生が多く、彼らを大事にする運営を続けて行くべきです。
※	ディスカッサーが来なかった。責任を持って担当してくれる人を選任してほしい。
※	ディスカッサーにオーディエンスがついて回るのをイメージしていたが、自分の周囲はそのような感じではなかった。一対一で対応するだけでと、普段来る人が一人増えただけ、といった印象でした。
※	残念ながらディスカッサーの方がどなたか分かりませんでした。そもそもポスターを見に来られたかも分かりませんでした。ディスカッサーの方がはっきりと分かるようにしていただければと思います。
※	ディスカッサーの必要がない盛り上がりも多かった。自分のポスターとディスカッサーが重なり、ポスターに来てもらった人には申し訳なかった。
※	ディスカッサーの質がばらばらで、特に、ディスカッサーが来ない所があったと聞いた。逆に、ディスカッサーがいても、演者が居ない場合もあったらしい。どちらもけしからんと思う。ディスカッサーは了解を得て決めいののだろうか？
※	ディスカッサー制自体は良く機能していたように思うが、この制度に依存しないといけないようなポスター発表があるのなら、そのタイトル・内容・ポスター構成などに問題があるのだと思う。職務としてディスカッサーの先生が、本当に聞きたい人に対して邪魔になっていた場合があったのではないかと心配だった。担当する全ポスターに対してではなく、聴衆のいないポスターにのみディスカッサーの先生がが討論の相手をすればいいと思う。個人的には、ディスカッサー制度よりも、討論時間内に担当者がポスター前にいるかのチェックを事務的にするだけで十分だと思う。
※	久しぶりのディスカッサー制が機能していなかった。小生の研究室の大学院生は他の参加者と議論ができたので問題はなかったが、ディスカッサーが全く現れず、がっかりしていた。中途半端に行うならば混乱を招くだけであるし、若手研究者を失望させるだけであるのでやめるべきである。
※	担当者の人選、質が重要だと思います
※	回ってこないディスカッサーなら、待つだけ無駄。
※	多数の方々を動員するほどの効果があったのかどうか疑問。
※	ディスカッサーを不要とする演題も多く見られました。各演題を分単位で時間指定してもいいかと思います。
※	ディスカッサー制は良い面もあるので採用したらいいが、ディスカッサーにもよる。人選に十分な注意と配慮が必要ではないか？
※	ディスカッサーによりポスターを見に来ていただいた方との討論を中断させられた。ディスカッサーだからといって、討論を遮る必要はなく、聴衆がいなくて1人でぼつんとしている発表者のポスターを回ればいいと思う。わざわざ混んでいるポスター発表者のところにディスカッサーは必要ない。
※	自分としては議論してもらってよかったが、一般的には善し悪しは微妙かも。

質問12. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	3日間は短く、関連分野のセッションの重なりは最低限にすべき。
※	ディスカッサーを担当したが、プレゼンターが2人現れなかったのは閉口した。
※	同じ時間帯に複数の聴きたい講演が重なる傾向にあった
※	年会会長のポリシーとか考えをもっと全面に出して、チャレンジングな試みをどんどん導入して欲しいです。固くなった研究者を柔らかくする良い機会にしてください。
※	最終日のポスターセッションの時間帯は、その後帰ることを考慮して、少し早めの時間に設定した方が良い。私は、最終日、ポスターで発表だったが、帰れなくなる危険性が考えられたので、セッションの時間が終わる前に会場を後にした。
※	3日目の遅い時間帯にポスターセッションがあると帰れなくなる。翌日は金曜日なので公務があれば尚大変です。また、ポスターセッションの時間が長すぎて、だれて(疲れて)きます。
※	ワークショップで話してポスターに立つのはそれはそれで大変でした。
※	ポスターの時間が遅い
※	複数の聞きたいセッションが同時刻にあり、なかなか選べなかった。
※	ポスターの時間が夜遅く、保育園のお迎えに困りました。
※	ポスターとワークショップの両方は疲れます。
※	ポスター発表の時間が長くなったので多くのポスターが見られたが、反面 終了時間が遅くなってしまったため、遠方から来ている発表者を中心に7時前には多くのポスターが撤収していたので、今後は発表期間を3日ではなく4日にする事で発表の分散をおこなっていただき、かつ終了時間は遅くとも7時までにしてほしい。
※	ポスターセッションの時間に他のセッションが設定されていなかったことは良かった。
※	ポスター会場の配置がよくなかった 企業展示等が間にはさまる配置で、雑然としていた
※	ワークショップのテーマ数をもう少し増やして、口頭発表の数を増やしてもよいと思います。また、ポスターの発表時間を延ばしてもいいかもしれませんが(ここ数年、討論時間終了後も訪問して下さる方が多いため、他のposterが見られないことがあるため)。
※	ポスターセッションの終了時刻はあと1時間早く。
※	ワークショップで発表された演者が自分のポスターの前で、丁寧に質問に答えていた姿が印象的で好感を覚えました。ワークショップ発表者にもポスターで発表することに産生します。
※	開催日時が、3日間では少ない。
※	学会の最終日は金曜日にして欲しい。最初に全体のポスター発表時間が入ると、その後の奇数番号・偶数番号の割振りは無視されてしまい、3時間説明しっぱなしだった。
※	子育て中のため、基本的に日帰りでは学会参加できない。口頭発表にも言えることだが、17:30を超えてセッション終了時間が設定されると、当日中に帰宅できなくなるので参加できない。今回参加を見送った理由の一つである。
※	ポスターセッションの終わる時間が遅い。前日7時過ぎまではいられない。
※	ワークショップ発表者とポスター発表者が同一でなくてもよい。
※	最終日の終了時刻が例年に比べて遅いため、最後までポスターに残ると最終便の飛行機に間に合わなかった。
※	ワークショップとシンポジウムの数が例年に比べて少なく、自分の興味がある分野(神経科学、合成生物学、システム生物学、イメージング技術)の公演がない時間が多かった(あるいは重複していた)せいか、テーマに偏りがあつたように感じてしまった。
※	コアタイムの前後にフリートークの時間が30分設けられたのはよかったと思う。自分の発表と重なる時間帯でも、いくつかのポスター発表に質問ができたので。
※	「ポスターからワークショップに採択されるシステム」はよかったと思いますが、その分エキスパートの講演が減ったのが残念でした
※	例年のことであるが、過密すぎる
※	時間が長すぎ。
※	会期を短縮したのは良くなかった。とりわけ、午前中にセッションの数がすくなく、もう少しシンポジウムおよびワークショップの数を増やすべきだと思います。
※	3日間に集約されたのは大変な努力だったと思いますが、参加しやすくとてもよかったと思います。
※	ポスターは、1時間ずつ2回で2時間のことが多いのですが、3時間あったのはとても良かったと思います。
※	二日目に興味のあるワークショップ、シンポジウムのセッションが集中したため、そのほとんどに参加できなかった。初日、最終日は興味のあるセッションが少なかった。参加者数や興味を持った人の数を参考にして次年度のテーマ・セッション編成・日程振り分けに生かして欲しい。
※	もっと多くの人をポスターからワークショップに採用した方がよい。
※	最終日のポスターは午前を持ってくるべき。それと明らかに混み合いそうなセッションは大きな会場へ移すべき。
※	ワークショップに採択された演題にはポスターを貼らない、ポスターセッションに参加しないものがあつたので、採択されたらポスターは免除するなどの措置をしてもよいのではないかと。また、採択されていない演題でもポスターの貼りつけが遅いことがあつた。
※	ワークショップに採択された演題については確実にポスターが貼られていることを学会側で確認してほしい。
※	ポスターからワークショップに採択される場合、ポスターとプレゼンテーションの両方を用意するのはかなりの負担になる。ワークショップの場合はそちらのディスカッションの時間を多めに、ポスターは免除してもらいたい。
※	今回に限りませんが、学会が学生発表の練習の場にならない工夫が欲しいと思います。かつてのように、グルーブリーダー格の話をまとめて聞く場があるとありがたいです。学生さんでは全体像を把握しきれない場合もありますし、自分で手を動かしていない教授の方には発表内容が論文通りで、本当に聞きたい情報が得られず残念な時があります。
※	プログラムは、基本的には17時に終了するようにして頂きたい。今回のように19時30分に終了してから帰宅すると遅い時間になる。小さい子供を持つ研究者にとっては、やさしくないプログラム日程だと思いました。また、学会とはいえ業務という一面もあるため、一般的な労働時間である9:00-17:00に収める努力が必要だと思う。
※	同じ分野の発表を連日行っているが、分散してしまい、その分野の活発なやりとりがなくなった気がする。以前のように、同じ分野を同じ日に発表するスタイルにしてほしい。
※	ワークショップで話した演題もポスターに出しているのは、良かったと思います。invited speakerにポスターをお願いするのは、申し訳ない気もしましたが・・・。

質問12. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	いつも要旨登録にキーワードを入力させられるが、ほとんど意味をなしていない。用いた生物種、対象としている病気、注目している遺伝子など、カテゴリ情報もつけてキーワードを入力させ、その情報からも検索できるようにすると、普通の検索では見つからなかった似た分野の研究者／発表が見つかるように思う。
※	既存の技術でバイオロジーを進めることも重要だが、革新的なバイオロジーのためには新技術は絶対に必要だと思う。その意味では、合いも変わらぬ技術軽視。企業ブースのほうが(売っている本人達は理解していないが、笑)発見できるネタが多い。これでは、新しい実験手法や実験系を一から構築しよう、という若者が育たなくても無理はない。それと、ポスターが長いかわりかは盛り上がりによる。大事だと言うのであれば、遅れて来た人も、早く帰ったり飲みに行く人も、全員が揃っている、午後イチパンの時間帯にすべきだと思う。
※	ポスターセッションの時間をもう少し前にできないでしょうか
※	効率をあげるのはいいが、学会期間が短く、セッションが集中しすぎていた。期間を4日にして、もっと分散してほしい。
※	ワークショップに採択された方は、ポスター発表までする必要はないと思います。
※	ポスターセッションを午前中にしてほしい。
※	ポスターは2時間くらい(奇数偶数それぞれ1時間)が良いかなと思いました。
※	最終日の終了時間が遅いと、遠方には当日帰れない。少数者をどう考えるか？ 理事に地方大学の研究者が少な過ぎるのが原因ではないか？
※	ポスターを1日の真ん中に持ってくるべきだと思います。シンポジウムは夜にもっていても聞きたい人は参加するでしょうから。
※	終了時刻が遅すぎる。
※	ポスターセッションの開催時間をもっと早めていただければありがたいです。
※	三日間はちょっと短い
※	ポスターの時間はちょっと長すぎるのかなと思った。発表もして聞こうと思うとそうなるかもしれないが。
※	最終日のポスターの終了時刻をもっと早めるべきである。仕方がないことではあるが、最終日のポスターの時刻の参加者数がかかり減少していた。
※	分類と演題の振り分けが適切に行われているか、毎年疑問です。分子生物学会としての特徴が良くも悪くも出ていると思います。生化学会、細胞生物学会の方が適切なセッションに入れてもらえると感じています。
※	ポスター撮影禁止の意味が分からない。撮影禁止なら発表しなけりや良いと思います。海外を参考に学会運営等いろいろ進めていると思いますが、海外では撮影禁止などせず、むしろポスターのミニ印刷版を配布していることが多いと思います。時代錯誤です。
※	日程が3日間は、ちょっと詰め込み過ぎと思う。もう少し時間的余裕が欲しい。
※	(1)遠方からの発表者が最終日に割り当てられると、結局もう1日滞在しないといけない。その辺りの配慮も必要かと思う。(2)ポスターの貼り付けや撤去の時間が守られていないため、「ポスター発表」の時間外に見ようとしても「貼られていない」という事例が多かった。時間厳守を、指導者の先生方に徹底させてもらいたい。
※	同じ内容のプログラムが重なって、片方しか聞けなかった。3日間に分散すべきと思う。
※	3時間のセッション時間は事前の予想に反してちょうど良いと思ったが、後半のディスカッサータイトムが終わるとポスターをはがし始める演題が多く、残りの自由討論時間は拘束の意味があまり無い雰囲気も感じた。
※	一般演題として相応しくない(抄録の内容が極めて乏しい)演題が非常に目立った。大学院生、学生の発表練習の場の提供という意味においても、一般演題の抄録についても厳密に査読を行い、あまりにも内容に乏しいものは発表を認めないことが必要と思う。演題数を多くすることばかりにとられるのはマイナスである。
※	ポスターの時間がやや遅かった。
※	例年、4日間を使用していたと思うが3日間だとちょっとキツイ気がした。
※	3日間に詰め込んだおかげで興味あるポスターをすべて見て回ることができなかった。ワークショップ会場は常に満員で、興味はあっても余程の気力がない限り2時間以上立ち見で参加しようとは思わないのではないかと。予算が不足しているのであれば、参加費を値上げしてもいいと思います。
※	ポスター発表を奇数・偶数と分けておきながら、前後に番号関係なく対応する時間を設けられていたため、3時間ずっとポスターに張り付かされた。
※	ポスター時間が長いのは、意外にありがたかった 聞ける機会が多くなるので。

質問13. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナー&ミニセミナーについて（その他）

※	その他記述
※	整理券が足りなさすぎるので、もっとランチョンセミナーを拡大してよいと思います。
※	ネームプレートにバーコードなど入れて、スキャンすれば情報が提供できるようにすると良い。各ブースで氏名等書くのはめんどくさい。
※	ランチョンセミナーなどはすぐにいっぱいになってしまっていて、入場するのが困難な場合が多い。企業セミナーで内容が聞きたいのに、ランチ目当ての学生なども多いと感じる。
※	セミナーは、お弁当がなくても良いので、立ち見でも部屋に入れて欲しかった。
※	企業協賛のランチョンセミナーが少ない。
※	最終日も開催してほしい。
※	〇〇〇のブースには初日に参加した。抽選会があるので、毎度非常に楽しい。しかし、参加後も金髪のお姉さんから何度も抽選会に勧誘された。こちらも何度も断るのも申し訳ないと思い、その通路がデッドスペースと化してしまった。こういう問題があるので、〇〇〇のブースは展示場の隅っこに配置しているのだと思うが、残念ながらそっちはポスターのメイン方向側(1-500くらい?)であった。クローク側でもよかったのでは？
※	座ってるだけの企業の人は何しに来てるんでしょうか。
※	朝早くいかないと聞きたいセミナーの整理券はとれない。
※	ランチタイムに行なうよりも、その時間をはずした方がよい。聞きたい内容であれば、時間を都合して参加します。
※	参加している企業それぞれにメリットがあること、企業からの参加費が年会の収入に大きく貢献していることは十分に理解できる。しかし、学会員(研究者)の立場からすると、あまり有効に機能していないように思う。
※	3日目のランチョンがなかったため、企業の情報を入手する機会が少なかった。企業さんが夜遅くに撤収をおこなわなければいけないのがきついのではないかと思った。
※	興味ある企業の展示ブースを探すため、入り口掲示まで戻るのが面倒であった。携帯アプリから確認できたかもしれないが、試していない。また番号表示のあるポスターと違って、どの通路にいるのか把握しにくかった。「展示1~10」などの掲示が通路床等にあると多少役に立つかもしれない。
※	企業ブースの場所が、ポスター設置場所を押しつける形で配置されているように感じ、逆だと思った。もちろんスポンサーは大事だが、企業ブースは分散配置させても良いと思う。
※	景品が例年より悪く、不景気なのがよくわかった。
※	ブース展示をランチセミナーで紹介する場合は良いが、そうでないブースは近寄りがたくなってしまう。
※	バイオテクノロジーセミナーが例年より少なかったため、もう少し増やせるとありがたい。
※	セミナーそのものはよいが、講演を聴きに行きセミナーを聞けなかった。同じものを日、時間を変えて複数回行って欲しい。
※	聞きたいセミナーに入れなかった
※	少なすぎ。
※	展示会場案内図の様なものが有ると便利である。
※	今年はセミナー数が少なかったように思う。もう少しあっても良かった。
※	バイオテクノロジーセミナー&ミニセミナーが、会期中に二日間しか開催されず、また、開催数も半分以下に減少しているようで、アクティビティの低減が感じられた。来年以降はもう少し頑張ってもらいたい。
※	展示会は良かった。適当にコンタクトがとれるし、企業の姿勢も読み取れる。
※	選択肢が少なかった
※	11/26ランチョンのキャリアパス委員会企画がよかったです。ただ、ケータイを使った聴衆参加型、といっても、それが生かされていないような気がしました。
※	ミニセミナーは気軽に参加できてよかったと思います。
※	ポスターと同一会場であったことで多くの来場者があったと思う。
※	1日の展示時間が長くて大変かと思われる
※	もっと数を増やしてほしい。例年並に
※	少なすぎる。景気は良くなっているのに
※	例年に比べて少なかった
※	参加企業数をもっと増やしてほしい。
※	今までよりも数が減っていて物足りなかった。
※	企業展示会が前方に来ていて目立ちすぎ、ポスターがかすんでしまったという印象だった。企業展示は奥の方が良いのではないか？あるいは、会場を分けるとか。

質問14. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	シンポジウムに希望があります。せっかく参加するので、その分野を最先端の結果だけではなくて、オーバビューーしてくれる様な形を希望します。最先端の結果は、もっと小規模な会合で充分学べると思います。
※	発表が少ないし、活気がなかった。
※	生化学会と共同開催を続けて欲しい。
※	だから会長を中心とした運営が下手だっというています。規模の問題ではない。
※	お祭りだと思って、割り切っています。このままで良い。色々な分野の話が聞けて楽しいです。より専門的な学会とは別なものだと思っています。
※	日本生化学会と早く合併してください
※	大会の規模が大きいので、他分野の人、旧知の人と触れ合えるので楽しい。しかし同時に、自身が聞きたい内容が少ない。また自身の研究をディスカッションしてくれる人も少ない。規模を縮小すると、この傾向に拍車がかかるのでそれは困る。ただ規模が大きい結果、講演会場溢れも日常的に起きている訳で、それも問題。現在、細胞生物にも所属しているが、細胞生物は毎年参加したいかなと思うが、分子生物学会は数年に一回でいいのかもしれない、と感じた(前回参加は4年ほど前)。
※	狭い部屋で立ち見覚悟で聞くだけの体力がない。
※	日本生化学会等との合同開催を希望します(すなわち、もうちょっと規模が大きくなってほしいと思っています)。
※	すぎるとまでは行かないが、大きい。
※	テーマが多岐にわたり、それ故参加差は多くなるのは仕方ないことと思う。
※	参加していないので、想像できない
※	参加者自体はもう少し多くてもよいと思います。
※	もっと大きくても良い。トークの採択数が増えれば自ずと参加者も増えると思う。
※	会員数に比してどうかという話なので、一概に適当とも大きすぎるとも言えない。
※	生化学会と合同で開催した方がよいと思います
※	大きい、その自分自分の研究と関係ないテーマも聞ける点はよい。
※	この規模で3日はやはり少ないのでは
※	かなり大きい、分子生物学会はこれで良いと思う。
※	例年より小さい。例年通りが良い。
※	研究を始めてすぐの院生にとっても良い研究発表の機会なので、規模は絞る必要はないと思います。
※	もっと大きくて良い 生化学会と同時開催すべき
※	本年会の規模が大き過ぎてまったくダメ。適正規模を大きく超えている。学会(大会、年会)の適正規模は、会場が地方大学(あるいは地方都市の会議場)でも問題なく開催できる規模。その規模ならば、日本の多くの都市(少なくとも県庁所在地規模の都市)で開催することが可能だし、聞きたい講演が重なることも避けられる。「学会の大会、年会は地方都市で3日間開催するのが適正規模」
※	Q10の回答参照
※	ワークショップが混みすぎていて、改善が必要。
※	大きすぎるといえば大きすぎるが、流行を俯瞰してつまみ食いする目的には向いている。
※	わからない
※	大きすぎる気もするが、色々な研究分野の発表を見れるという点では良いと思う。
※	シンポジウム・ワークショップ会場の座席数が圧倒的に足りていない。ワークショップのビデオ中継の試みはよかった。規模は大きすぎると感じる。
※	いつもの4日間から今年は3日間でしたが、それでおさまるのなら、3日間でもよかったです。
※	大きすぎるが、お祭りっぽくならず、議論が盛んなので、これでよいかもかもしれない。
※	やはり、3日間で参加者が少ないので、よい傾向である。
※	いつもより日程が短く、ポスター演題数も少なかったのは衰退しているということでしょうか？
※	動物と植物は分けて欲しい。時間や場所などで。
※	4日が望ましい。季節は12月でないと駄目です。
※	大きいけど、その規模を生かした大会にすべき。
※	分野が多岐に渡っているので、規模が大きくなるのはある意味仕方が無い
※	一日も早く生化学会と融合すべき
※	参加していないので分からない。
※	とにかく大きすぎる。一人の発表者(発表者リストに載る人)がだせる演題数を3つまでとか多くても5つまでに制限するとよい。いくつもいくつも同じ研究室から出すのはよくないし、やたらに共同研究で名前が入っているのも見苦しい。数が減らせないなら、演題5つ以上出す人からは参加費の割増し(6つ目からは1つ増すごとに参加費一人分)を徴収するなどの対策を。
※	やはり3日間の開催ではきついなと思う。従来の4日間に戻してほしい。
※	規模としてはよいと思うが、会場に入ることすらできないセッションもあったため、人数の予測をより正確にして、部屋の割り振りに反映してほしい。
※	もっと大きい方がよい。
※	少し減ってきている気がした。人がはみ出しているへやも多かったのも、つい、ポスター会場に足が向く。
※	規模が大きくても構わないと思いますが、演題を出しても適当なセッションに入れてもらえなかったり、規模の大きさゆえ、多くの演題の中に埋もれてしまい、本当に聞いてもらいたい参加者(生化学会、細胞生物学会の会員ともかぶっているはずなのですが)に来てもらえていないと感じています。今年はまだマシ(ポスター会場に来てくれた人が例年より少し多かった)でしたが、分子生物学会の大きな課題だと思います。
※	今までよりも規模が小さくなっていて、この後の学会がどうなるのか不安に思った。
※	3日間に詰め込んだおかげで興味あるポスターをすべて見て回ることができなかった。ワークショップ会場は常に満員で、興味はあっても余程の気力がない限り2時間以上立ち見で参加しようとは思わないのではないかと。予算が不足しているのであれば、参加費を値上げしてもいいと思います。
※	開催は大変だが、一定でない、いろいろなほうがおもしろい

質問15. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

記述	件数
生化学会	22
日本生化学会	7
生化学会。	2
Q4で挙げた学会	1
ゲノム編集研究会	1
以前から議論されているが、米国のように日本生化学会と合体して学会の体制を強化した方が良い。似たような分野の学会が2個は必要でない。	1
基礎老化学会、細胞生物学会、神経学会	1
細胞生物学会、発生生物学会	1
生化	1
生化学会 オーバーラップしている部分が多い	1
生化学会、細胞生物学会、発生生物学会、神経科学学会などの複数合同。その場合には規模が大きくてよいと思います。	1
生化学会、癌学会、免疫学会など	1
生化学会、細胞生物学会	1
生化学会、細胞生物学会、タンパク質化学会	1
生化学会、細胞生物学会、神経科学会、神経化学会、遺伝学会	1
生化学会、生物物理学会	1
生化学会、発生学会	1
生化学会、毎年ではないが。	1
生化学会。ただし、時折、分子生物学会のみの開催も残しておいたほうが今後の学会のあり方についての検討につながると思う。	1
生化学会との合同学会は、多くの演題が有り、盛り上がっていたように記憶している。	1
生化学会とは学会が合併するか、それが無理なら毎年合同にするのがよい。	1
生化学会と一緒に問題ないと思います。内容に差があるとは思われません。	1
生化学会と合同で良い。	1
生化学会と細胞生物学会	1
生化学会は歴史はあるが時代遅れの学会で、分子生物学会と参加者を奪い合う。これらが合併するのがいいと多くの人が思っているが、できないというなら、分子生物学会が生化学会に吸収されればよいだろう。重要なのは分野の発展や若い研究者の育成であり、学会間や偉い先生間の主導権争いではない。生化学会との合併ができない理由を会員に明示してほしい。	1
生化学会、細胞生物学会	1
生花学会と合同開催は一年おきでいいペースだと思います。	1
蛋白科学会	1
日本バイオインフォマティクス学会？	1
日本細胞生物学会、日本生化学会	1
日本生化学会	1
日本生化学会 日本癌学会 日本細胞生物学会 日本農芸化学会 日本免疫学会 日本神経科学会 等	1
日本生化学会、日本細胞生物学会、日本遺伝学会	1
日本生物化学会	1
分子生物学会のみの単独開催がよいが、たまには、遺伝学会や生化学会などと合同でも良いような気がする。	1
毎回、生化学会と合同にしてほしい。	1

質問15. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	生化学会を吸収して下さい。
※	生化学会と同時にやる方がよい
※	分野が広すぎて集中して聞けない
※	分子生物学会に期待するのは、参加することにより分野横断的な視点が得られることです。分子生物学会に出るだけで、動物と植物の話を一度に聞けます(いわば、なんでもあり学会)。こうした場合は、分子生物学会しかありません。
※	日本生化学会との統合や年会の合同開催が、未だに恒久化していないのは驚きである。速やかに進めるべきだと思う。
※	私の所属学会である細胞生物学会と合同開催になれば、こちらとしては楽になるが、学会の規模が違いすぎるので現実ではないだろう。
※	重複するシンポジウムや演題が見受けられ、ジョイントするのが望ましい。あるいは本会としての特徴を差別化し、スリム化することもあり得る。
※	生化学会と統合を進めるのであれば、統合までの期間中合同開催でもよいが、統合が無いのであれば、単独開催の方がよい。
※	現行通り、2-3年に一度は、生化学会との合同開催が適当だと思う。
※	生化学会と分けて開催する意義を感じない。合同開催の方がメリットが多い。
※	分野ごとに分けてほしい。大きすぎてもみるのが大変
※	1年の総決算、他学会既発表でもよい学会なので、合同にする意味がない。
※	次年度は生化学会との合同開催が予定されているが、参加者のバックグラウンドが異なっているために、同じ演題を出しても、質問される内容が異なっていることが魅力で、両方の学会に演題を出してきました。基本的には、成果学会とは別々に開催していくほうがよいと考えています。
※	日本は似たような学会が多すぎる。シナジー効果を上げるためにも、毎年どこかの学会と共同開催することを基本線に考えた方がよいのではないかと？
※	何年かに一回、他学会との合同開催があると新鮮さを保てると思います。
※	生化学会との合同を継続して欲しい。
※	合同開催であれば、所属学会の参加費だけで合同する相手学会への参加を認めていただきたい。一度に学会費を2つ分払うのは、負担に感じます。
※	生化学会と合同でBMBIにするとワンストップショッピングにはなるが、発表のチャンスは減るので痛しかゆし。個人的にはBMBより分子生物単独の方がポスター会場の活気がある印象あり。
※	単独開催か合同開催かについては特に希望はありません。私の場合は、生物種横断的な大会であることが参加する理由なので、合同開催で規模が大きくなるぶんには何の問題もありません。
※	他分野との交流の意味でジョイントセッションは刺激になると思います。
※	何年かに一度は分野に近い他の学会複数(5個くらいを想定)で合同開催して、そのときのみ横浜か神戸の大きな会場で行なえばよい。私は、日本分子生物学会の規模が四分の一程度以下になればよいと思う。 今後は、学会を上手に分割して活性化を図るべきと考える。学会の大会(年会)の規模は、「大は小を兼ねない」。 今後は学会、年会の規模を縮小して、全国の各都市で開催して、会場では密度高い議論を尽くして、活性化する方向でお願いしたい。
※	生化学会との重複があるのでできれば一緒にやってほしい。
※	特に今年度は生化学会と開催日が近かったので、合同にしてしまった方がよかった。
※	生化学会との合併を希望します。全体の内容に特に差が見当たりません。
※	現行(単独開催および生化学会との合同開催)の形式がよい。生化学会以外の他学会との合同開催の必要はない。
※	分子生物は、かなり大きいので、これ以上大きくしないほうがよい。むしろ、分子に飲み込まれる形で、なんらかの学会が合同開催にするのは、ありかもしれない。
※	これ以上の規模になると運営が大変では？
※	合同開催は、むやみに規模が大きくなるだけで、ピントがボケる。特に、分野連携のタネになるような異分野合同開催なら面白いと思うが、生化学会とか、発生とか、似たものどうしの生命科学分野との合同なら、まったく魅力がない。ただ、運営費が節約できる、などの運営上のメリットがあるのなら、仕方がないとも思う。
※	分子生物学会の雰囲気大切に、会員が重なる生化学会と合同がよい。そして、一つの学会なるように持って行ったほうが、この分野の振興そして影響力が大きくなるように思う。
※	以前の年会のアンケートの選択欄にあったように数年に1回程度合同開催する程度がよい。
※	生化学会と早く合併すべし
※	学会を統合するのでもなければ、基本的には単独開催で、合同開催は数年に一回というくらいがよいと思う。平年は、他の学会からホットピックを持ってきてもらって、それ用のワークショップ枠をつくって招待する、というのが希望。
※	かつての福岡大会のような長期連続日程とならないように、相互協力に尽力してほしい。
※	細分化しすぎた学会を合同で開催して欲しい。
※	一日も早く生化学会と融合すべき
※	合同開催は良いが、ただでさえ会場が狭く立ち見なので、より広い会場でお願いしたいです。
※	大きな学会と合同でやると、人が増えるのが嫌。かといって、小さな学会だとバランスが悪いでしょう。
※	無理にワークショップの枠を埋めているような気がした。つまり、「3日間にわたってパシフィコを貸し切れた。→部屋もたくさんある。→部屋の数だけワークショップを設ける。」という印象がある。2日間で済ませられたのではないのでしょうか？
※	あまり規模の大きすぎない学会との合同開催なら良い
※	分子生物学会の良いところは、分子生物学という大きな括りでの研究者が集まるので、それを促進する方向での企画は良いと思う。

質問16. 年会会期が3日間であったことについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	勤務地から通える場合は4日がよいと感じますが、宿泊となるとやはり4日は長く、本務に支障が大きいです。難しい問題です。
※	最終日のポスター発表を終えてから帰ると、帰りが夜中になってしまった。
※	その年毎の年会による判断で良いと思う。
※	演題数にもよるので何とも言えないが、今年を感じならば、3日間が適当であった。
※	口頭発表を聞く場合には、セッションの始めから最後までいないと座ってゆっくり聞く事ができないため、つらい。部屋が狭すぎる事が問題。4日に戻すというより、5日から6日間にかけて広く浅く開催した方が良いのではないかと。それでゆっくり発表を聞けるのなら会費が上がっても良いと思う。
※	3日目のポスターになり、その日のうちに帰れなかった。また、ワークショップは関連分野が重なりすぎて聞きたくても聞けない発表が多かった。
※	演題数で決めれば良いと思う
※	今回は3日間がよかった。将来、内容が多くなることがあれば、4日間がよい。
※	会期が長くても全期間参加しない研究者が多いため、短くても良い。
※	3日間にすることで、聞きたい発表テーマがかぶることがおおく、見逃した演題がおおかった。しかし、ポスター発表でそれらを確認できたので、3日間で行うのであれば今後もポスター発表も同時に行っていたきたい。
※	3日であれば、ワークショップを19時以降にもっと入れて、全体にゆとりを持たせて欲しい。
※	2日間でもいい。
※	よその学会と比べると4日間は長いかもしれないが、分子生物学会は規模が大きいので、情報を集めるためには口頭発表をもう少し増やしてほしい(例年の午後の日本語のシンポジウムの復活)。また会場が大きすぎるため、800ポスター演題/日の4日間にしてほしい。
※	期間は3日でも良いと感じたが、一日あたりの発表数が多くなったため体力的につらかった。非関連分野でも、せめてポスタータイトルだけは見ようと思ったが全て回ることはできなかった。
※	この規模の学会を3日間で開催するのは無理を感じた。最終日は早めに終わらないと当日中に帰れない。
※	他学会との合同開催であれば、5日間でもよいと思います。
※	会期が従来の4日間から3日間になったことはとても良いと思う。来年度は生化学会と合同で無理と思うが、これからは分子生物学会単独では3日間の会期にしてほしい。また、4日間の日程を捻出することが難しく、部分参加にせざるを得ない人にとって、3日間開催は歓迎されるはずである。
※	ポスターのコアタイムが長かった分、余裕を持ってまわれたと思う。今年の演題数の規模であれば、3日でも大丈夫という印象を持った。
※	3日間がベスト。4日間では部分参加になる。
※	なぜ、急に変わるのか理解に苦しむ。
※	夜中までであると、参加できない
※	巨大な会場で4日間開催するというのは適正な規模を超えている。
※	Q10の回答参照
※	4日のほうが余裕が出ると思う。シンポやワークショップも増やせるはず。
※	学会後20時から未発表データを含めた討論ができるよう独自にワークショップを行っているが、3日だと多くの人が中日に予定を入れるからか、今回は参加出来なくなる人が多かったように感じた。個人的な希望で申し訳ないが、上記の理由から中日が二日間できてこのような企画にも参加できる自由度が上がるため、4日間を希望したい。
※	なるべく短い方がいい！2日も可能では？
※	宿を確保して頂き、朝から夜までまとめると、宿代や休暇、業務振替が減るのでありがたいです。4日の場合には土日を含めるなど配慮頂きたい。大都市で恵まれたポジションの大学関係者が組織委員会に多いとなかなかお気づき頂けないかもしれません。
※	プログラムの終了時刻が遅くなるようなら、4日間にして終了時刻を早くしてもらったほうが良い。
※	3日間だったので予定がツメツメで、1日の疲労度が例年よりひどかった。
※	参加者数が減少傾向にあるというなら、それは分子生物学会の需要が低下しているということである。分子生物学会がいわゆる生物系学会の中でも「なんでもあり学会」なのは周知の事実であり、その需要が下がるなら、他の学会との合併、あるいは勇気ある発展的解散を議論してもよいのではないだろうか。
※	うちの研究室は1泊2日しか認められない(場合によっては日帰りを強制させられる)のであまり考えられません。
※	今回なぜ3日にしたのか？それだけ分子のアクティビティが低下した現れでしょうか？毎年生化学と合同で4日間やるべき。季節は12月
※	4日間になれている。展示発表が森曲がる
※	3日間なら全日程参加でも負担が少ない。
※	最終日の遅くまで参加していると、その日のうちに帰れなく次の日に帰る事になるので、最終日は夕方までには終わって欲しい。
※	同じ内容で短くて済むのであれば短い方がよい、というだけの理由。たぶんお金も節約できるでしょうし。
※	3日間にするならもう少しシンポジウムを減らして、ワークショップを午前と午後に分けられた方が聞きにきたいテーマがかぶりにくくなるのではないのでしょうか。
※	3日だと盛り上がりは今ひとつ。
※	3日のできるのだから3日がいいんじゃないですか。
※	2日間で済むのでは？
※	日程が短かったので、最終日のセッションが遅くまで行われたため、帰る人が結構いたので、スケジュールを検討する必要があると思います。
※	会場の使用料が年会の運営を圧迫しているのであれば、3日間でもしかたないと思う。ただ、3日間にすると、1日あたりのポスター数が増え、将来的にその数をこなせるだけの年会会場が見つからなくなるのではないかと危惧される。そうなった際には、演題数の制限も必要となるでしょうね。
※	たいへん難しい判断。四日間の利点もあると思う。ただし、出張していく身からすると、濃縮された期間のほうが対応しやすい。

質問16. 年会会期が3日間であったことについて <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	3日間に詰め込んだおかげで興味あるポスターをすべて見て回ることができなかった。ワークショップ会場は常に満員で、興味はあっても余程の気力がない限り2時間以上立ち見で参加しようとは思わないのではないか。予算が不足しているのであれば、参加費を値上げしてもいいと思います。
※	最終日は金曜日を希望する。

質問17. 市民公開講座「生命に迫るサイエンス&アートの新たな挑戦」について（その他）

※	その他記述
※	公開講座は参加しなかったが、作品展示はよかった。
※	作品展示は面白いが、作者やプロモーターと対面できるとよい。
※	作品展示のみ見ました。それなりの効果はあると思うますが、展示もポスターのように並べるだけでなく、会場の部屋などに美術品として展示するくらいの気構えがあっても、良いと思います。
※	作品展示はとても良かった。私の仕事の内容が紹介された本の表紙のイラストレーターさんに会えて、本にサインしてもらって、写真を一緒にとっておもらえてこれ以上ない経験でした。
※	Gene to cells 表紙のタペストリーは素敵でした。どこにあるのかわからず探しました。もっと目立つところに展示したほうがよかったのでは？
※	会場で企画に気づいたが、とても良かった。
※	せっかくのアートなので、展示も会場を飾る、ぐらいつもりでやってほしかったです。もう少し、目につくところでやれば良いのに、と思いました。講座には参加しませんでした。
※	賛成！ 以前に有った「顕微鏡写真展」を復活させて欲しい。
※	企画の意図がわからなかった(アート)。切り絵がなぜそこに？サイエンスは芸術ではない。
※	試みは面白いのですが、アートという側面から見るとクオリティに問題があったと思います。
※	パネルの表裏に貼るのではなくて、一画を仕切った閉鎖空間を作って、壁に貼る方が良いと思う。そう、ギャラリーみたい
※	参加していないが新しい試みをするのは大切だと思う。また、サイエンスとアートはどこか深い所でつながっているはずなので、良い企画だと思う。
※	別な場所で日頃から行うべき
※	日程が良くない。中日に設定するべき。
※	まとまりがなく、一般の方がどのくらい参加されていたのかわからないが、満足されたのか疑問である。
※	参加していないが良い試みだと思う。ただ時間が遅すぎて恐らく市民は参加しなかった。
※	よかった、と回答したいが、複数選択でないのでここでコメントを。評価はしているが、昨年くらいバラエティーがあると盛り上がるように思う。今、生き物を材料に(もう少し言えばサイエンス全体で)アートとコラボして、という、昆虫大学や博物ふえすていばるなどの企画が、ものすごい人を集めていたりするので、その手の講演会(フォーラム)や物販、展示会があるとさらに盛り上がるように思う。ただ昨年は神戸開催ということもあり、ホテルの一室に押し込められてしまったので、ポスター会場や企業展示とうまく織り交ぜて、人の交流が活発になるようなイベントにしてほしい。
※	サイエンティフィックイラストレーションの展示が多かったが、これらが実際のプレゼンで役立てられるつながり作りがあるとよい。
※	講座には参加していないが展示は見た。展示にはもっと期待していた。アートというには、あまり斬新さが無かった。しかし次回にも期待します。
※	期待して参加したが、特に後半はサイエンスとアートの接点が見いだせなかった。分子生物学会内のイベントとして、やはり分子生物学を起点としたものであるのがよいと思う。
※	個人的には興味をもっていたが、講座が最終日の夜ではもう1泊しなければならず、出席を見送った。
※	公開講座はおもしろかった。展示はあまりみてない。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

※	意見記述
※	日本語を増やして欲しい。
※	ディスカッサーを経験して大変面白かったです。できれば担当数を半分(5課題)ぐらいにして、人数を増やし、多くの会員が経験できるとよいと思いました。割り振る作業は大変なことで推察しますが、、、委員の皆様には大変お世話になりました。
※	近年の科学研究に対する諸問題を議論したり啓蒙するとても良い機会だったはずなので、研究者の真摯な姿勢を一般社会に公開する為に、新聞テレビ等のマスメディアの取材を受け入れたり売り込むと良いと思います。久しぶりの首都圏での開催でしたが、恩恵を感じる機会は有りませんでした。横浜市や、パンフィコとの連携をもっと感じたかったです。
※	全体的に良く工夫されていて、これまでより参加、議論しやすい構成になっていたと思う。しかし会場によっては、聴衆が座れなくなっていたので、会場の広さをもっと検討してもらいたい。また、席を前に詰めすぎで、スクリーン位置も低いため、前から3列目にもスライドをフルに見ることができないところもあった。
※	植物の人たちがどんどん離れていっている。12月開催に戻して下さい。12月開催でカリキュラム(学生実験等)も回している。
※	昔の分子生物学会のようなわくわくする議論が少なく、残念だった。機器展示が数少ない収穫だった。
※	口頭発表会場の座席が足りない。
※	やはり3日間の会期は短く感じた。また、前回のような他の様々なイベントもあると良いと思った。ポスター発表、口頭発表、その他発表のどれに重点を置くかは人それぞれだと思うので、各時間帯にもう少し各人の選択の幅が広がるようなスケジュールの方が良いと思った。
※	キャリアパス委員会企画の池上彰氏を招いたランチョンに比して、学会企画の研究倫理フォーラムへの参加者が少なかったのは残念であった。重要なテーマであるので、もっと多数の参加者が望める日程が望ましい。
※	分野別に分けた方がよい
※	分子生物学会は、かなり分野の広い学会なので、無理に英語化に向かわせる必要はないと感じる。異分野の研究内容を英語で発表されても、専門の言語がわからない。英語化は、個別の学会で検討すれば良く、分子生物学会はそういった場ではない。
※	シンポジウムが少なく、選択肢がない。会場数も少なく、立ち見どころか定時にいっても入室すら出来ない。ワークショップの会場の割当てが拙い。一方でがらがらの項目に、広い会場を割り当てて、もう一方で込み合う事が容易に予想されるワークショップに狭い会場を割り当てている。ポスターを重視と言うが、ポスターに三時間もぶっ通しで費やされると、疲れてしまい議論できない。今までで最悪の会場運営であり、大会長の責任と考えてよいだろうと思う。繰り返しますがいままでで最悪です。
※	何だか盛り上がり欠けていた。
※	ジャズがなくてよかった
※	最終日にバイオテクノロジーセミナーをなくし、キャリアパスに関する時間に当てたのはかなり良かったと思う。しかし、午前のシンポジウムと午後のワークショップとの間がないため昼食を取る時間がなくなってしまった。時間的な日程を考えて、ランチョンにしていたら助かったと思う。
※	毎年楽しんで勉強しています。来年以降もよろしくお願いします。
※	日本生化学会と合併して年回も1回参加ですむようにしてください。
※	以前に比べて内容が薄くなっているような気がする。より専門的な学会が多数ある中、なかなか難しいと思うが、そうした学会の集大成となるような年会を目指して欲しい。
※	開催時期は、やはり12月がいいです。
※	朝9時からはしんどい。
※	昨年会の一部にあったお楽しみ要素を排除し、サイエンスに集中する姿勢が見えた年会であったことを高く評価したい。
※	ワークショップ口頭発表はPC持参必須となっているが、選べるようにしてほしい。PCを持って行ったのに、機器が対応してなくて会場設置のPCにデータを移すことになり、重たい思いをして持ち歩いた意味がなかった。
※	研究不正についてのワークショップに参加したが、内容は充実し、関わって来た方々の努力、苦労はわかりますが、あまりにも参加人数が少なく、学会を代表する意見集約とはなり得ないとおもいます。昨年のような斬新な試みを毎年期待する訳ではないが、面白さは必要だと思います。
※	会場が狭く、入れない場合も多かった。
※	米国のように、すくなくとも生化学会と合同または合併すべき。
※	昨年と今年は、それぞれテーマがあり、それらがはっきりと反映された年会になっていたのに、学会に参加すること自体を十分に楽しめた。学生からシニア研究者までの幅広い要望をすべて聞き入れるのは難しいかもしれないが、来年以降も、サイエンスも人的交流も満喫できる年会を目指して欲しい。
※	毎年お疲れ様です。
※	生化学会との合同開催を常に検討して欲しい。
※	大規模な年会の進行と運営はとても大変なことだと思います。会員として非常に感謝しています。一方で、良くも悪くも企画もパターン化していて、今年はどうだったね~というのが少なくなっているように思います。シンポジウム企画も学会の偉い先生方のいつもの顔ぶれ、という感じがすごくして、若手も女性も一応盛り上げるポーズは取っておくか、みたいに新しい人も入ってはいますが、前年とそうは変わらないという「デジャブ感」がしました。シンポジウムなどの企画代表者、演者は回数に制限を設けてはどうでしょうか？また、実質的に同一の研究室からの演題数にもある程度制限をかけてほしいです。せいぜい3つぐらいまでとか。学生トレーニングや宣伝に利用したい気持ちはわかりますが、なんでもかんでも持ってこられると聞いていてうざります。また、ポスター発表ぐらいは、若手の企画に任せてアイデアと企画者を募って自由にやらせてみて良いのではと思いますが・・・。
※	シンポジウム、ワークショップのセッション、演題数が少ないように感じられた。
※	前回の神戸では、私のポスター発表に割り当てられた部屋がホテルの大広間で、メインの展示場から離れていたことで、その部屋への客足がそもそも鈍く、挙句、部屋の照明が暗く、非常にポスターが見難かった記憶があります。元々の会場の規模の問題もあるので、多くを求めるのは酷だと思いますが、次回の神戸大会では、できるだけ箇所をポスターを集めるようにご配慮いただければ嬉しいです。
※	フォーラムが夜遅い時間であったので参加者が少なかった。開催時期は今回のように11月中のほうがよい。
※	ポスター発表者がいない場所が目立った

質問18. その他、年会全般についてのご意見

※	意見記述
※	神戸と横浜以外での開催を希望します。2005年の福岡で野球場で発表しましたが、議論の妨げにはなりませんでしたが、全国どこでも開催できると思います。
※	プログラムが夜遅くまで組んであるのは、家庭の事情で早く帰宅しなければならない者(通いで参加)にとっては、つらいです。少数意見だとは思いますが、遅くても18時くらいまでに終わるようにしていただけたら、...と願います。
※	学術以外のセッションは、これまで通り継続してほしい。学会として、社会に発信することが大事。
※	高校生の発表は新鮮だった。今後も推進していくことを期待したい。3日間になったが、それほど過密な感じはしなかった。今後も3日でいいと思いますが、横浜以外の会場だと無理が生じないか、慎重な検討が必要だと考えます。
※	3日間になったせいか、ワークショップの部屋が人で溢れてしまい、部屋に入れられないことなどがあつた。演題毎に部屋を移動する人数のことも考慮に入れて、大きめの部屋設定をしてほしかった。良い発表を聞けないのでは、学会参加費を払っている意味が無い。
※	今年は演題締め切りが一ヶ月早かったですが、私は反対です(今年年会発表できなかったことの遠因になりました)。例年のように12月第2週付近に年会を実施していただき、演題締め切りを8月下旬にお戻しいただくよう切にお願いします。
※	例年そうですが、会場内の椅子が足りない。
※	ポスター会場でのアナウンスの音量が大きすぎる。大事なdiscussをしているときに、そばで話している相手の声も聞きにくくなるような大音量でアナウンスを流すのは、discussionを妨げているとしか思えない。また、アナウンスの文章が長すぎる。もっと簡潔にできるはずである。それを繰り返し聞かされるのは大変に苦痛だった。
※	初めて参加しましたが、若い人に来てもらえるような工夫が随所に見られており、大変好感が持てました。また参加したいです。
※	スケジュール的にももう少し余裕(何も無い時間)があつたほうがよいと思います。それと、フリースペース(話、食事(購入)、ディスカッションなど)ができるスペースが広めにとってであると便利です。
※	ポスター会場が、企業展示ブースがメインでポスターがないがしろにされている印象を最初受けました。
※	ワークショップ開催会場が狭くて(特に第7会場)、聴くことができないセッションが複数あつた。みんな旅費と参加費を払って来ているので、これはゆゆしき事態である。どのワークショップも同じくらいの収容数の部屋で開催するべきである。2年前の福岡では、満杯の場合には別部屋でサテライト中継を行ってくれた。Late breaking abstract(LBA)は、プログラム集に掲載されていないためか、ポスター前の人影もまばら、ジャンルもごちゃ混ぜで、全く盛り上がっていなかった。廃止するか、せめてLBA演題一覧表を入り口で配るべきである。3日目のキャリアパス企画は有意義だったが、時間厳守でお願いしたい。
※	国内学会の中では最も良質なもののひとつだと思う。
※	毎年思うのだが、植物科学者の参加を妨げるようなテーマ分類になっている。光合成や穀物生産性、耐病性などの分子生物学に関する発表の場が存在しない(その他の項目にいれるしかない)。哺乳類の分子生物学の重要性は認めるが、その他の研究分野への配慮を求める。
※	アプリが便利だった。機器展がお祭り騒ぎみたいになってアカデミックな雰囲気が壊れるので、福引や華美な服装のコンパニオンなどを自粛するように企業に要請すべき。本来の目的から外れていると思う。
※	ポスターの発表時間が長く、後半は疲れてしまった。またワークショップの部屋のサイズが小さく、人が一杯で入れないことがしばしばあつた。ワークショップ以外の一般口頭発表を設けるなり、会場を増やすなりが必要だと感じた。
※	ワークショップ指定演者もポスター発表しなければならない、という決まりは廃止した方がよい。
※	会場に入れにくい人気のセッションが多かつたので、もう少し会場の広さや座席数を増やしてほしいです。
※	三日目のワークショップで講演したものです。ワークショップの後にポスター会場へ移動すると、自分のポスターに匿名の手紙が貼付けてありました。内容は私を個人的に誹謗中傷するものであり、全く身に覚えのない中傷でした。手紙には脅迫めいた内容も含まれており、その後大きな不安感と不快感が残りました。これは学会運営の問題でないことは承知しておりますが、このようなことがあると今後安心して学会に参加することができません。なんらかの対策法があれば教えていただきたいと思ひます。
※	勝手に変えるな。
※	特にございません。以上
※	発表者の声小さくて聞き取れなかつたが、座長の方がもっと注意しても良いのではないかと思います。会場の後ろは聞き取りにくい。また質問者は所属と名前を名乗って下さる方が、あとの興味がわかれます。機器展示で展示者側が所属と名前を得ようとしているのが見え見えで、機器の説明をして頂くのに気が引けました。また展示者の私語があまりにも気になりました。以上、全般に活発な学会で良いところはいっぱいなのですが、目についたとこのみ書かせて頂きました。お疲れ様でした。
※	会期も3日と減少し、ランチセミナーも大幅に減少で、全般的に学会の活性の低下が危惧された。来年以降は、また昨年度のように盛り上げて頂きたい。
※	海外若手招聘企画は日本分子生物学会にしかないとても良い企画なので、一律に隔年ではなく毎年でも採用されるようにして欲しい。
※	2日目のキャリアパス委員会の企画がとてもよかつた。年会全体の雰囲気として、若い人が参加・活躍しやすいものであると感じられてとてもよかつた。
※	総合的に、たいへんよかつたです
※	参加費を安くするべきである。研究費がない人は自腹で参加費を払っている。つまり、研究費を獲得することは、学会参加費の金額だけ自分のふところにはいることに等しい。そういう格差をなくして、参加しやすい学会にするためには参加費を安くするか無料にする必要がある。ただし、現在の年会の規模はあまりにも大き過ぎる。
※	研究者や研究分野によって千差万別だが、インパクトファクターの高い論文というだけで口頭発表に採用されるのではなく、オリジナリティがある発表者が選ばれている分野もあつたので、分子生物学会の研究者の質が高いと感じた。
※	発表はともかく、ディスカッションは日本語をベースに英語も可としてはどうか。特定の人しか発言しない傾向が強まったように感じられる(とくに学生)。
※	年々趣向を変え、工夫が見られるものの、聊か色々やり過ぎている感が最近の学会で強く感じる。また、ゆるキャラなど世相に流され過ぎている感も注意が必要である。有名どころの発表ばかり重要視するのではなく、小さくても斬新なアイデアの基、頑張っている研究室に焦点を当てる企画も良いのではないかと感じる。〇〇大学の研究だから、△△研究所だからとか予算や研究規模以外で判断することも今後重要な課題である。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

※	意見記述
※	もっとワークショップ、シンポジウムの特色がわかりやすいと参加する方も楽しいので、そのあたりの情報の出し方を工夫していただければと思う。座長、講演者の顔の見える学会企画を期待しています。
※	分子生物学会は参加しやすい学会だったのに、英語の発表が増えて理解しづらくなってしまった。日本人が日本人に向かって発表するのだから、以前みたいに日本語で発表でいいのではないのでしょうか
※	毎年の発表演題の内容傾向分析と欧米の関連学会のそれを比較して、手薄な分野、その逆の分野といった動向分析をoverviewするような報告なり発表があってもよいのではないだろうか。
※	スマホのアプリがとても使いやすくなっていたのが特に良かった。興味を持ってきている人も表示されるため、参考になった。
※	生化学会と早く一緒になってほしい！ そうすると、同じような学会に2回もいなくて済むので、時間とお金の節約になる！
※	□昨年、今年と音楽や芸術といった研究以外との融合に力を注いでいる一方で、行列ができるようなポスター発表も以前のように見かけなくなり、研究発表には活気が感じられなくなった気がします。
※	会場によっては入れなかったところがあったので、あふれた場合用在中継用の部屋があれば良かったと思う。
※	部屋が狭すぎて、講演を聴きたい人が入りきれない。そのため講演を聴くために部屋をまわることができず、諦めることが多かった。
※	今年は事務局の運営が悪かったように思う。特にフォーラムの採否がポスター発表が終わってだいぶたった9月半ばで（その割には発表者の提出の紙には9月上旬メ切とあったが）、プログラム集印刷の原稿まで時間がないからせかされるなど論外である。IT企画、と言っていたりするが（上の欄は字数制限で書けなかったのここで書きますが）公式twitterアカウントをつくって、当日のアナウンスや、広報活動としてつぶやくなどもなく、盛り上がり欠けたように思う。ポスター会場そばで食事など売っていたが、夕方に売り切れていて、軽食や甘いもの、飲み物など、7時近くまでやるのだから、配慮してほしかった。このアンケート項目も、プラス面はいろいろ選択肢があるが、マイナス面の選択肢はよくない／不満であるなどと大雑把で、もう少し具体的な改善点を拾い上げる工夫があれば良いと思う。（あと、コメントは何字以内なども書いておいてください）最近では、横浜と神戸を行ったり来たりな感もありますが、京都や名古屋など、もう少し違うところでやると、普段 行けない人たちも来るように思う。
※	池上彰氏とのトーク企画は、パネリストの歯切れが悪く、不完全燃焼感が強かった。せっかく池上氏を読んでいるのだから、もっときちんとした意見を言える人をパネリストに選ぶべきではないか。
※	去年は、工夫していると言っても、浮ついたものが多かったが、今年の工夫は堅実に地に足がついていた。ただ惜しむらくは、その分地味で周知が徹底しなかった、と思う。
※	フォーラムの採択通知を放置され、ポスター発表の期限が終わってから連絡が来てフォーラム演者の手配に非常に苦労した。そういった運営上のミスがないように今後気をつけていただきたい
※	3日間の学会会期がベスト。
※	今回は、私は参加していないが、参加した友人達から、もう分子生物学会には出ない、というような声を聞いている。シンポジウム、ワークショップ、ポスター等を含め、全体の印象が悪かったようである。私は、次回の年会で、続けるかどうかを判断したいと思う。
※	やはり規模が大きすぎると、シンポジウムやワークショップで発表する人や、発表しなくても「オーガナイザーがいつも同じ」なため、そこにコネを持たない人間はワークショップに採択されることはないように見えます。
※	1)ポスター掲示の時間が守られず、年々悪化している。演題取り消しの表示もされず空白のままの場所が目立つ。きちんと発表がなされたかどうか学会としてチェックしたほうが良いのではないのでしょうか。2)ワークショップ採択のポスターが貼られていない例が多い。じっくり見直すことができません。3)口頭発表会場で平気でスライドの写真を撮る輩がいる。ポスター会場同様掲示したり、会場でアナウンスした方が良いのでは。学会としての熱気の低下とマナーの低下を来る度に感じ、寂しく思います。
※	今回は都合で自分が発表の1日しか参加できなかったのですが、その中で答えられる所を答えました。次回はフルで参加したいと思っています。
※	折りたたみ式の繊維ポスターでの参加が増えて来ていますが、この形式のポスターはアイロンをかけますと綺麗に展示できます。日本のホテルではアイロンを設置していないホテルが多いので、ポスター会場にポスターをのばすためのアイロンがあると便利だと思いました。
※	マンネリ化しているように感じます。神戸の分子の方がよかったです。米国細胞生物学会によく参加するが、そのほうが10倍多く有用な情報が得られます。
※	会場が寒い。冷房きかせすぎ
※	他の学会であるような地域単位の支部会を設置していただいて、地域単位での議論を活発に行える機会と環境を整備いただけるとありがたく存じます。やはり、分子生物学会は大きすぎるし、分野が広すぎる感じがありますね。
※	〇〇さんがひどすぎた。
※	キャッチアップしておかないといけないトピック。それらを取り上げて、カンファレンスを行ったらどうでしょう。ワークショップは分野別学会にまかせて。
※	大きい学会のメリットを生かした企画（例えば池上彰氏招聘や昨年の幾つかのイベント）を毎年1つ2つは行って欲しい。
※	池上彰さんを読んで行ったパネルディスカッション企画がとても良かった。
※	手間でなければ、総会欠席の場合の委任状を、議題別に賛否をとるような形にしてもらえるとよかったですと思います。
※	時期が、サンクスギビングデーのホリデーの時期であったため、外国人招待講演者には不評であった。シンポジウムやワークショップで活発な議論をするためにも、このホリデーのあとの12月初めの時期がベストである。
※	学会規模が大きいわりにプログラム構成等はよかったですと思う。ただ、なじみのある会場ではあるものの、会場が広過ぎるので移動が大変で、3日間の参加は体力的に無理。個人的には東京国際フォーラムでの開催が広域的にちょうどいいのだが。
※	下手な英語で講演している日本人の先生方が多かった。開かれた学会を目指すのであれば、ゆっくりはっきりとした英語で講演すべきと思う。小声で早口、なおかつ妙なアクセントと節回しの英語で講演された日本人の先生がおられたが、聞く気が失せた。国際学会ではないのだから、日本語で発表した方が良いと思う。
※	サイエンスアートなどは面白い企画だと思いますが、日程が短いと他のセッションに参加しなければならず、観るゆとりはなかったです。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

※	意見記述
※	分子生物学会は研究不正問題をまともに議論している日本で唯一の組織である。不都合な真実から目を背けていない唯一の組織である。学士院も学術会議もほとんど何もしていない以上、現状における使命は極めて重い。日本の研究不正問題は、分子生物学会が取り上げるのをやめたら解決への道のりは絶望的になる。いかなる抵抗や非難があろうとも、いかに参加者が少なくとも、研究不正問題を取り上げ続けてほしい。
※	上にも書きましたが、分子生物学会としての特徴が薄れてきていると思います。分子生物学会に演題を出すメリット(どのような研究者とディスカッションして情報交換できるか)とは何か、他の学会との差別化をどのようにするか、とても大切だと思います。
※	年々面白くなってきています。10年ほど前の方がよかったのでは？
※	発表の英語化する理由も良くわかるが、やはり日本語で議論する方が実り多いと感じる。本年会においても、英語での講演よりも日本語での講演の方が活発な質疑応答がみられた。英語で講演あるいは質問したいのであれば、海外の学会に参加すれば済む話である。昔と違って海外に出向くことは学生でも難しいことではないので、分子生物学会は実をとって日本語でも良いと思う。
※	ここ数年の中では最も良い会であったように感じた。理由として、神戸と比較して横浜の方がアクセスおよび会場周辺の雰囲気が良いこと。そういう中で、ある程度ゆとりを持って議論ができるのは素晴らしい。スケジュールも比較的ゆとりがあったように思う。広い会場なので、慌てて移動していると疲労も溜まりやすくなるので、休憩時間は今回ぐらいが良い。ディスカッサー制度とワークショップ採択制度は是非続けるべきと思う。
※	捏造問題についての取り組みが後退したことは残念。徹底的に時間を割いて、議論すべき
※	会場が狭すぎて、演者まで立っているところがあった。混み具合を予想するのは難しいが、将来のノーベル賞候補者がいるような会場は広いところを確保した方がよいのでは。
※	いろいろと企画ものがあるのは外に対しては良いことかもしれないけど、昔のようにシンプルな形に戻してアカデミックな情報交換の場に徹した方が会員にとって良いのではないだろうか。
※	議論をする事を中心とするコンセプトが良いと思います。学会はそうあるべき。会期を延ばしてでも、平行するシンポジウムやワークショップの数を減らして欲しい。聞きたいものが重なって残念な思いをしました。
※	久しぶりの年会参加でしたが、今回はシンポジウムでの議論が盛り上がりなかった印象を強く持ちました。STAP事件でCDBの活気が明らかにダウンしていることも残念に思いました。
※	海外研究者招聘企画は、学会の活性化につながるので、ぜひ続けて欲しい。できれば国際学会にしてもらえると、業績としては都合が良い。
※	ポスター会場が無線LANを強化してほしい。無料コーヒーはありがたかった。昼の時間に開催でも弁当がでないというセッションがあった。自分が出てないが、前後も予定がある場合は食事できないことになる。有料でも何もでない、食べてもいけないとしたら問題では？少なくともそのあたりの注意書きが冊子の案内にないので、出るかどうかの判断が難しくなっていた。分野は離れているが著名な人や重大な動向などの講演がほしい。1, 2人程度でも。日程は分散でなくかためてもいい。内容は弱い関連で、(一応科学の範囲で考えれば)ロボット、宇宙開発、ナノテクとか。この分野にどう生かすかを考えるのは聴衆の仕事。講演の一部にこの学会と関連する部分を語ってもらえば十分。